宮内省図書寮

（その二）

まえがき

この寺院史は各務地区・須衛地区・それに一部鵜沼地区に現存する十六ケ寺を調査したものである。ただ無住となっている蘇原地区（坂井）の一ケ寺については、その管理寺が各務地区に所在するためこの編に記載した。

寺院は個人で訪ねて調査したり、会員全員が参加して分担調査したこともある。また一度で足らず、二度・三度と訪ねて再確認したりする場合もあった。それに一時期には他の研究・調査をしていて、いたずらに歳月ばかりが経ち、気にかけてはいても手が届かなかった時、サークル副会長の小野木昌氏が中心となられ、数人の方の精力的な調査活動により、ようやく発刊へのメドがつき嬉しい限りである。

この研究は第一段階の研究・調査であり完全なものではないが、今後市内寺院の研究をされる場合には何らかのお役に立つものと考えており、またそのことが会員各位の努力にも報いるものである。

ここに改めて小野木昌氏をはじめ諸氏のご努力に感謝し、まえがきとする。

平成十年六月　　各務担当　足立秀成

目次

各務地区（鵜沼一部）須衛地区寺院 ……「取材順」……「その三」

一、見桃院（臨済宗）……「無住」大安寺兼務
二、清見山禅寺（黄檗宗）……
三、金王山院（臨済宗）……
四、薬師禅寺（臨済宗）……
五、教福寺（真言宗・大谷派）……
六、禅默寺（臨済宗）……
七、慈眼寺（曹洞宗）……
八、禅谷寺（曹洞宗）……
九、洞禅寺（曹洞宗）……
十、寶師寺（真言宗・「無住」山の前清見寺兼務）……
十一、大禅院（臨済宗）……
十二、妙喜寺（臨済宗）……
十三、善守寺（臨済宗）……
十四、良光寺（曹洞宗）……
十五、安福寺（臨済宗）……
十六、妙法寺（臨済宗）……
十七、大林寺（真言宗・高野山真言宗・大谷派）……

鵜沼東町一～三丁目……
須衛地区前西町……
須衛地区東せせ町……
須衛地区西東町……
須衛地区南町……
須衛地区蘇原・坂井町……
須衛地区東町……
須衛地区町洞……
須衛地区車町……
須衛地区務町……

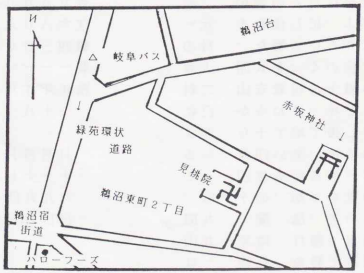
一～五
五～一
一～五
一～六
三～九
三～五
三～一
三～六
廿～廿
十九～
五～一
四～六
四～六
五～一
五～六
六～八
六～八

霊雲山見桃院（庵）

住職　無住（林承夫・大安寺兼帯）
開宗　臨済宗
派　妙心寺派
開基　山壁和尚（大安寺六代）
本尊　元祖　元禄十二己卯（一六九九）年十弐月十一日
並びに諸仏　面観世音菩薩

■各務原市鵜沼東町二丁目三十七番地
JR鵜沼駅下車北へ徒歩約二〇分
岐阜バス緑苑口下車東へ徒歩約五分
TEL・〇五八（二八四）〇一六八（連絡・大安寺）

見　桃　院



現場付近見取図

歴代住職

開山壁立祖仞和尚禅師　嘉永元年（一八七〇）十月十三日

中興二世蘭陵和尚禅師　嘉永六年（一八五三）十月廿四日

五世　四世　三世　寶参慈芳和尚禅師　嘉永六年（一八五三）十月廿四日

六世　開山　啓堂舜興首座　明治十二年（一八七九）十月廿七日

村瀬慈敬尼　照戒素常尼　大瀧素梅尼　明治十三年（一八八〇）十月廿九日

主座　首座　明治三十年（一八九〇）十月廿九日

昭和三十九年（一九六四）甲辰十月十六日

以下無住・大安寺住職兼務

寺宝

＊由緒

当庵に美濃国各務郡鵜沼村見桃庵歴代記の資料により、開山大壁立祖仞和尚禅師が、元禄十己卯年（一六九九）開山は大安寺五世の大瀧素梅尼は、慶應丙寅年二月十五日より住職になったと記されている。この慶應丙寅年は、慶應二（一八六六）年のことである。

庵は、明治二年に亡くなった三世も存命中で、この時期見桃庵には三人の尼住職が居たことになる。

庵では、明治二年に九十三歳で亡くなった三世が示寂されたあとの同庵に残された文書には、明治一文（一八六八）年に、五世の祖梅尼は、中央より「教導職試補申し付け被候」の村瀬慈敬尼は、明治廿一年七月八日に生まれ、明治四十年九月十九日に当庵に就任され、昭和三十九年（一九六四）に押されて、以後無住となる。庵にかつて繁栄の時期もあった見桃庵も、いまでは新時代の波に追いやられていて、庵そのものは、一見地域の集会所を思わせる外観を呈している。

なお当庵には、開基の山田家に対する文書がのこされている。その表には、

「山田家は当菴開基家に付既往累代之名号無論尚将来後世ニ到モ其法名ニ対シ当菴ニ於テ永代特ニ祠堂諷経スル事」

（諷「ふう」は声を立てての意）

表の後半には、抑吾山田元祖ヨリ重定ニ至ノ中間数十世の経歴中盛衰アリト雖モ世々執モ忠勇義膽ニ〆国家ノ治亂ニ従ヒ事之有功尠シトセス往古ヨリ傳有ノ歴録系譜等紛亂シ詳細ナルヲ知ルニ由ナシ中興次第ノ履歴ハ委詳別記簿冊ニ在リ因テ告略ス……

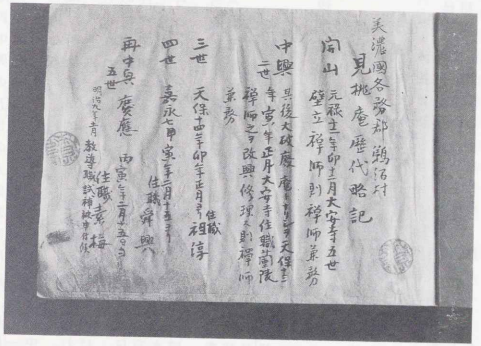
縁日

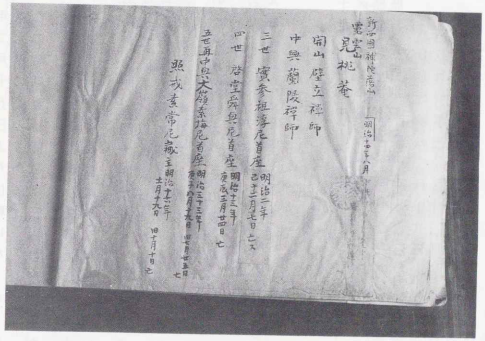
＊施餓鬼（盆）　＊ど詠歌（毎月一日）

歴代住職の墓碑

墓碑は院（庵）内にはない。

歴代住職略記

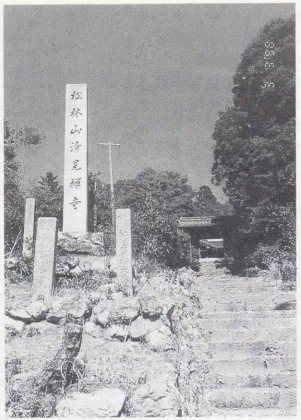




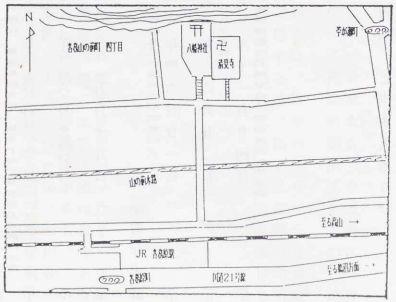
松林山清見禪寺

■各務原市各務山の前町四の二〇番地
（弘法第二十一番霊場）
名鉄電車各務原線各務原駅下車
北へ徒歩約三〇分
TEL・〇五八三（八四）六三二六

住職　小林弘道
宗派　黄檗宗
開山　慧海宣和尚
開基　無竜圓抽
本尊　十一面観世音菩薩
並びに諸仏　弘法大師



清見寺



現場見取図

歴代住職

開山　慧海宣和尚　……延宝七（一六七九）年己未　臨済正傳三十五世祥光二代、菩寺開山、慧宣和尚寂。延宝七年己未五月五日戌時示寂。　五月　五日　示寂

二代　壁心互和尚　……享保十乙巳（一七二五）年　臨済正傳三十六世木福四代、菩寺三世。　六月　念日　示寂

三代　鳳洲梧禅師　……享保十八癸丑（一七三三）年　八月念六日　示寂

四代　大圓鏡禅師　……文化十癸酉（一八一三）年　五月十九日　示寂

五代　雄峰仙大和尚　……臨済正傳三十九世清水十三代、再建清見五代雄峰大和尚寂。　示寂年不詳

六代　準世泰岩翁尼禅師　……明治六癸酉（一八七三）年閏六月廿一日　示寂

七代　中興誓覚尼和尚　……昭和十一丙子（一九三六）年　六月廿二日　示寂

八代　春能光尼和尚　……清見七代中興誓覚尼和尚嗣位、八才示寂。昭和十四己丑（一九四九）年十一月廿四日　示寂

九代　（小林弘道・現住職）　……臨済正傳四三世、菩山八代清水監院尊能尼和尚寂位。派頭於清水寺示寂。

寺宝

由緒

今より三〇余年前の延宝の頃、この地に「無庵円抽」と申す人あり。寺よりの景観が、三保（静岡）の清見寺に似ているところから一草庵をつくり、これを清見寺と称した。無庵円抽は、この寺に臨済正傳の三十五世、慧海宣和尚を招いて開山とする。寺は以来、隣地の八幡神社の社官寺となる。代々の住職は、敬神山宗の大道を実行する傍ら、区内の教学の中心となっていたが、天保十二辛丑（一八四一）年、寺の堂宇が傷んだため、信徒は挙って本寺の再建に協力をする。当寺の第五代、雄峰仙大和尚の項に再建の文字を見るが、この和尚の頃と思われる。

その再建時の祝白に、

> 卯今改華古松林　善哉遷佛供養瑞
> 　　時西方花投機心
> 　　
> 　　
> 　　

歴代住職の墓碑

七代誓覺尼和尚建立の弘法堂

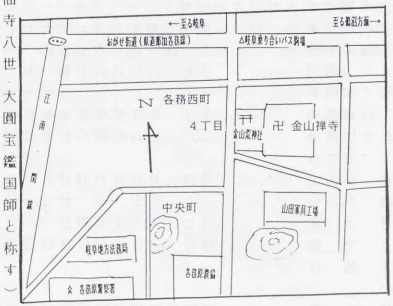
神遊山金山禅寺

■各務原市各務西町四丁目二一五二番
岐阜乗り合いバスおがせ行き駒場下車
南へ徒歩約七分
TEL・〇五八三（八五）一四四七

（聖澤派・大雅派）

金　山　寺

住職　鳥山玄真
宗派　臨済宗妙心寺派
勧請開山　愚堂東寔和尚（加茂郡八百津大仙寺八世・大国宝鑑国師と称す）
開基　足立四郎右衛門（即心宗徒禅定門）・寛永二年一月十二日・寂
本尊　釈迦如来
並びに諸仏　弘法大師・地蔵菩薩・三十三観音・十一面観音菩薩



現場見取図

歴代住職

開山（勅諡一国師第子）

二山　大圓宝鑑国師

三華　雲南応悦和尚首座

四亭　白・公和尚座

五普　梵・知禮尚座

六仁峰岑知禮尚座

七無極味禅主座

八琛峰文泰主座

九金峰城極主座

十樵蔭曜樹老座

十一孔峰禅山恵亮老長

十二名知儀忠和尚

十三大拙玄昌和尚

十四玄道宗道

十五寛道真

寛文元年（辛酉）正月十一日寂

天和二年（壬戌）正月十一日寂

徳和二年（辛酉）正月十一日寂

享保四年（己亥）正月十一日寂

寛保元年（辛酉）正月十一日寂

宝暦十一年（辛丑）正月十一日寂

安永四年（乙未）正月十一日寂

慶応二年（丙寅）十一月十六日寂

明治三廿一年（庚子）正月十七日寂

大正八年（己未）正月廿四日寂

昭和三年（戊子）正月廿一日寂

（現住職）

諸佛寺宝

＊円作、空当寺院の十一面観音像（各務原市指定重文）

……さ当寺に安置されている円空仏は、市内ではごく少ない一体で、彫刻は慈愛

農円空七作にて木造。その蓮台上の立像は、高

家上人の十二体の幽霊像（そうして）に属し、市島羽哲宗本山の現在の中心地を遍歴して、彼は廿三才の時、

に幼くまはれ、今はいかるら。約三〇年前江戸初期にの美濃国中島郡上中島（そ中

生ま円空ン、チ、厚さ十三センチの観音像である。

に愛対し眼て差のし怒り注形掛がる込らみがているら。反面、粗削りの尊像には、諸悪

の一刀彫をしらいてはなりの知れる円空親仏知周発願通日本を。心に各地をたる。彼廿三数多く

十弐体の残邸刻むとこ臨済宗僧とな

上万の躯をてて済。こはとの

人幼生くしれ、いかのは

に

諸佛寺宝

＊火防血達磨像画（模写一軸）（足立静一氏、寄進。原文のまま。）

……火防血達磨像（無学印）

抑当寺ノ開山ハ大圓宝鑑国師ノ秘蔵品ニシテ維新廃藩後細川家故有テ改革ノ際

ニ此ノ一軸ハ肥後国主細川候ノ秘蔵品ニシテ維新廃藩後細川家故有テ改革ノ際

人紀ノ為メ一軸ヲ贈与シ永ク火災ヲ免ンヲ誓フ

首念血ノ妙火ヲ依テ今模寫ヲ入ノ達磨ハ防ニヲ下シ月日

截臨特別鑑状ヲ似ル或ヲ告ヲ

之筋物取査ニ八テ

胴臨取調ニ附ル

ノ時後千鐵居際月

中収ク共ヲ出聞ヲ直某ヲ烟中

ヲ収ク共ヲ出聞ヲ直某ヲ烟中

ニ方惜ムト云ヘ侍之ヲ聞キ二ヲ直ニ附スコト

ニ人ヲ漸ト云ヘ侍之ヲ聞キ二ヲ直ニ附スコト

ニ入首ヲ截ノ之中ニ共ヲ出聞ヲ直某ヲ烟中

ノ入首ヲ截ノ之中ニ共ヲ出聞ヲ直某ヲ烟中

ノ胴中ヲ収ク

山岡鉄舟ヲ其ノ後来シ幸ヒ静穏ニ至ル

学ヲ管賛レ成シ其ノ金ノ貳拾圓鉄舟ヲ義舟往来シ士ヨリ学管ニ長治ニル

管長ヨリ頂戴シタ模写品昭和三十八年改三月十日遊山金二本山月二十四日付別紙モノ造ノ通ノデアル

静寄贈寺四寺日地蔵其改ノ労ヲ主謝セ旨

一贈ス

中田紘柏

当寺は古来、金山庵と称して、寛永十二年（一六三五）、乙亥（一六四七）年、南応悦尚大旦那茂郡細目村四十四年三月廿一日。

現在門氏八百一津町大発の願に協力寺、第八世愚堂和有縁尚の浄尚永財の法嗣、愚堂内村愚堂は、宇宙明治四十幅十四年三月廿一日。

右衛門氏の応和尚の師であ師の弟子の雲南は、尚は、国師の分法を得て、転版世し

招請なお勧請開山和尚の願人はされるも惜しいことに、国師とも称すを。

紀州高野山

嘉永二年

伊藤萬蔵氏寄進

弘法大師

佛地獄絵図十幅

観音三十体

地蔵二体

地蔵堂

観音堂

紀州高野山ヨリ勧請分霊ナリ、

伊藤萬蔵氏寄進

弘法大師

佛地獄絵図十幅

地蔵二体

観音三十体

地蔵堂

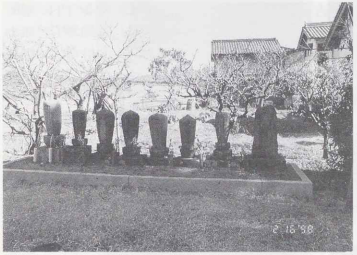
寺盤の山、寺は、祖師の開山の願いの山の末寺の寺の世許寺を伝法の大子の寺の大許し寺の仙寺の法の末の大仙後の法の寺の後の法の寺の後の法の寺の

縁日（年中行事）

- ※毎月一日（安全祈願祭）
- ※毎月第三土曜日（お経習会）
- ※三月彼岸会（彼岸中日に弘法大師開帳及び、山門施餓鬼・一般の施餓鬼会盆）
- ※八月十六日（永代祠堂会・人形その他佛具不用品供養）
- ※九月彼岸会（除夜百八の鐘・参拝の人善男善除災の為撞く）

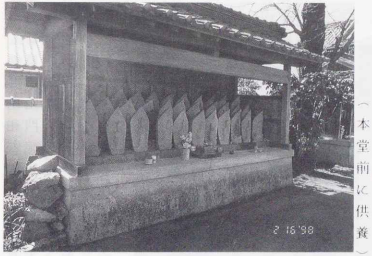
歴代住職の墓碑

（本堂裏手に供養）



二十二観音

（本堂前に供養）



東方山薬王院

薬　王　院

住職・原恵準（当院第七世）
宗派・臨済宗妙心寺派
開山・万霊和尚（大安寺第七世）
開基・清入道（開祖）
本尊・石薬師如来（製作者・製作年不詳）
並びに諸仏

■各務原市各務おがせ町八丁目十二番地
岐阜乗り合いバスおがせ停留所下車
北へ徒歩十分
TEL・〇五八三（八四）一八五八

現　場　見　取　図

歴代住職

初代　開山　萬霊普覺和尚（大谷寺七世）　貞享二乙丑（一六八五）年二月廿三日　寂年不詳

二代　開基　翁清心入道

三代　要堂妙忍

四代　法屋測源

五代　大智宣本

六代　桂巖安厳

七代　良恵霊

八代　柏堂恭

九代　指恵操

十代　東亮

十一代　現住職　原恵準尼

昭和四十一年十二月十日　寂

昭和十三年九月廿五日　寂

明治三十六年八月廿四日　寂

明治四十二年八月廿八日　寂

文化元年八月十日　寂

文化二年九月廿六日　寂

甲子（一八二四）年

乙丑（一八二五）年

丙寅（一八二六）年

丁卯（一八二七）年

戊辰（一八二八）年

己巳（一八二九）年

庚午（一八三〇）年

辛未（一八三一）年

壬申（一八三二）年

癸酉（一八三三）年

甲戌（一八三四）年

乙亥（一八三五）年

丙子（一八三六）年

丁丑（一八三七）年

戊寅（一八三八）年

己卯（一八三九）年

庚辰（一八四〇）年

辛巳（一八四一）年

壬午（一八四二）年

癸未（一八四三）年

甲申（一八四四）年

乙酉（一八四五）年

丙戌（一八四六）年

丁亥（一八四七）年

戊子（一八四八）年

己丑（一八四九）年

庚寅（一八五〇）年

辛卯（一八五一）年

壬辰（一八五二）年

癸巳（一八五三）年

甲午（一八五四）年

乙未（一八五五）年

丙申（一八五六）年

丁酉（一八五七）年

戊戌（一八五八）年

己亥（一八五九）年

庚子（一八六〇）年

辛丑（一八六一）年

壬寅（一八六二）年

癸卯（一八六三）年

甲辰（一八六四）年

乙巳（一八六五）年

丙午（一八六六）年

丁未（一八六七）年

戊申（一八六八）年

己酉（一八六九）年

庚戌（一八七〇）年

辛亥（一八七一）年

壬子（一八七二）年

癸丑（一八七三）年

甲寅（一八七四）年

乙卯（一八七五）年

丙辰（一八七六）年

丁巳（一八七七）年

戊午（一八七八）年

己未（一八七九）年

庚申（一八八〇）年

辛酉（一八八一）年

壬戌（一八八二）年

癸亥（一八八三）年

甲子（一八八四）年

乙丑（一八八五）年

丙寅（一八八六）年

丁卯（一八八七）年

戊辰（一八八八）年

己巳（一八八九）年

庚午（一八九〇）年

辛未（一八九一）年

壬申（一八九二）年

癸酉（一八九三）年

甲戌（一八九四）年

乙亥（一八九五）年

丙子（一八九六）年

丁丑（一八九七）年

戊寅（一八九八）年

己卯（一八九九）年

庚辰（一九〇〇）年

辛巳（一九〇一）年

壬午（一九〇二）年

癸未（一九〇三）年

甲申（一九〇四）年

乙酉（一九〇五）年

丙戌（一九〇六）年

丁亥（一九〇七）年

戊子（一九〇八）年

己丑（一九〇九）年

庚寅（一九一〇）年

辛卯（一九一一）年

壬辰（一九一二）年

癸巳（一九一三）年

甲午（一九一四）年

乙未（一九一五）年

丙申（一九一六）年

丁酉（一九一七）年

戊戌（一九一八）年

己亥（一九一九）年

庚子（一九二〇）年

辛丑（一九二一）年

壬寅（一九二二）年

癸卯（一九二三）年

甲辰（一九二四）年

乙巳（一九二五）年

丙午（一九二六）年

丁未（一九二七）年

戊申（一九二八）年

己酉（一九二九）年

庚戌（一九三〇）年

辛亥（一九三一）年

壬子（一九三二）年

癸丑（一九三三）年

甲寅（一九三四）年

乙卯（一九三五）年

丙辰（一九三六）年

丁巳（一九三七）年

戊午（一九三八）年

己未（一九三九）年

庚申（一九四〇）年

辛酉（一九四一）年

壬戌（一九四二）年

癸亥（一九四三）年

甲子（一九四四）年

乙丑（一九四五）年

丙寅（一九四六）年

丁卯（一九四七）年

戊辰（一九四八）年

己巳（一九四九）年

庚午（一九五〇）年

辛未（一九五一）年

壬申（一九五二）年

癸酉（一九五三）年

甲戌（一九五四）年

乙亥（一九五五）年

丙子（一九五六）年

丁丑（一九五七）年

戊寅（一九五八）年

己卯（一九五九）年

庚辰（一九六〇）年

辛巳（一九六一）年

壬午（一九六二）年

癸未（一九六三）年

甲申（一九六四）年

乙酉（一九六五）年

丙戌（一九六六）年

丁亥（一九六七）年

戊子（一九六八）年

己丑（一九六九）年

庚寅（一九七〇）年

辛卯（一九七一）年

壬辰（一九七二）年

癸巳（一九七三）年

甲午（一九七四）年

乙未（一九七五）年

丙申（一九七六）年

丁酉（一九七七）年

戊戌（一九七八）年

己亥（一九七九）年

庚子（一九八〇）年

辛丑（一九八一）年

壬寅（一九八二）年

癸卯（一九八三）年

甲辰（一九八四）年

乙巳（一九八五）年

丙午（一九八六）年

丁未（一九八七）年

戊申（一九八八）年

己酉（一九八九）年

庚戌（一九九〇）年

辛亥（一九九一）年

壬子（一九九二）年

癸丑（一九九三）年

甲寅（一九九四）年

乙卯（一九九五）年

丙辰（一九九六）年

丁巳（一九九七）年

戊午（一九九八）年

己未（一九九九）年

庚申（二〇〇〇）年

辛酉（二〇〇一）年

壬戌（二〇〇二）年

癸亥（二〇〇三）年

甲子（二〇〇四）年

乙丑（二〇〇五）年

丙寅（二〇〇六）年

丁卯（二〇〇七）年

戊辰（二〇〇八）年

己巳（二〇〇九）年

庚午（二〇一〇）年

辛未（二〇一一）年

壬申（二〇一二）年

癸酉（二〇一三）年

甲戌（二〇一四）年

乙亥（二〇一五）年

丙子（二〇一六）年

丁丑（二〇一七）年

戊寅（二〇一八）年

己卯（二〇一九）年

庚辰（二〇二〇）年

辛巳（二〇二一）年

壬午（二〇二二）年

癸未（二〇二三）年

甲申（二〇二四）年

乙酉（二〇二五）年

丙戌（二〇二六）年

丁亥（二〇二七）年

戊子（二〇二八）年

己丑（二〇二九）年

庚寅（二〇三〇）年

辛卯（二〇三一）年

壬辰（二〇三二）年

癸巳（二〇三三）年

甲午（二〇三四）年

乙未（二〇三五）年

丙申（二〇三六）年

丁酉（二〇三七）年

戊戌（二〇三八）年

己亥（二〇三九）年

庚子（二〇四〇）年

辛丑（二〇四一）年

壬寅（二〇四二）年

癸卯（二〇四三）年

甲辰（二〇四四）年

乙巳（二〇四五）年

丙午（二〇四六）年

丁未（二〇四七）年

戊申（二〇四八）年

己酉（二〇四九）年

庚戌（二〇五〇）年

辛亥（二〇五一）年

壬子（二〇五二）年

癸丑（二〇五三）年

甲寅（二〇五四）年

乙卯（二〇五五）年

丙辰（二〇五六）年

丁巳（二〇五七）年

戊午（二〇五八）年

己未（二〇五九）年

庚申（二〇六〇）年

辛酉（二〇六一）年

壬戌（二〇六二）年

癸亥（二〇六三）年

甲子（二〇六四）年

乙丑（二〇六五）年

丙寅（二〇六六）年

丁卯（二〇六七）年

戊辰（二〇六八）年

己巳（二〇六九）年

庚午（二〇七〇）年

辛未（二〇七一）年

壬申（二〇七二）年

癸酉（二〇七三）年

甲戌（二〇七四）年

乙亥（二〇七五）年

丙子（二〇七六）年

丁丑（二〇七七）年

戊寅（二〇七八）年

己卯（二〇七九）年

庚辰（二〇八〇）年

辛巳（二〇八一）年

壬午（二〇八二）年

癸未（二〇八三）年

甲申（二〇八四）年

乙酉（二〇八五）年

丙戌（二〇八六）年

丁亥（二〇八七）年

戊子（二〇八八）年

己丑（二〇八九）年

庚寅（二〇九〇）年

辛卯（二〇九一）年

壬辰（二〇九二）年

癸巳（二〇九三）年

甲午（二〇九四）年

乙未（二〇九五）年

丙申（二〇九六）年

丁酉（二〇九七）年

戊戌（二〇九八）年

己亥（二〇九九）年

庚子（二一〇〇）年

辛丑（二一〇一）年

壬寅（二一〇二）年

癸卯（二一〇三）年

甲辰（二一〇四）年

乙巳（二一〇五）年

丙午（二一〇六）年

丁未（二一〇七）年

戊申（二一〇八）年

己酉（二一〇九）年

庚戌（二一一〇）年

辛亥（二一一一）年

壬子（二一一二）年

癸丑（二一一三）年

甲寅（二一一四）年

乙卯（二一一五）年

丙辰（二一一六）年

丁巳（二一一七）年

戊午（二一一八）年

己未（二一一九）年

庚申（二一二〇）年

辛酉（二一二一）年

壬戌（二一二二）年

癸亥（二一二三）年

甲子（二一二四）年

乙丑（二一二五）年

丙寅（二一二六）年

丁卯（二一二七）年

戊辰（二一二八）年

己巳（二一二九）年

庚午（二一三〇）年

辛未（二一三一）年

壬申（二一三二）年

癸酉（二一三三）年

甲戌（二一三四）年

乙亥（二一三五）年

丙子（二一三六）年

丁丑（二一三七）年

戊寅（二一三八）年

己卯（二一三九）年

庚辰（二一四〇）年

辛巳（二一四一）年

壬午（二一四二）年

癸未（二一四三）年

甲申（二一四四）年

乙酉（二一四五）年

丙戌（二一四六）年

丁亥（二一四七）年

戊子（二一四八）年

己丑（二一四九）年

庚寅（二一五〇）年

辛卯（二一五一）年

壬辰（二一五二）年

癸巳（二一五三）年

甲午（二一五四）年

乙未（二一五五）年

丙申（二一五六）年

丁酉（二一五七）年

戊戌（二一五八）年

己亥（二一五九）年

庚子（二一六〇）年

辛丑（二一六一）年

壬寅（二一六二）年

癸卯（二一六三）年

甲辰（二一六四）年

乙巳（二一六五）年

丙午（二一六六）年

丁未（二一六七）年

戊申（二一六八）年

己酉（二一六九）年

庚戌（二一七〇）年

辛亥（二一七一）年

壬子（二一七二）年

癸丑（二一七三）年

甲寅（二一七四）年

乙卯（二一七五）年

丙辰（二一七六）年

丁巳（二一七七）年

戊午（二一七八）年

己未（二一七九）年

庚申（二一八〇）年

辛酉（二一八一）年

壬戌（二一八二）年

癸亥（二一八三）年

甲子（二一八四）年

乙丑（二一八五）年

丙寅（二一八六）年

丁卯（二一八七）年

戊辰（二一八八）年

己巳（二一八九）年

庚午（二一九〇）年

辛未（二一九一）年

壬申（二一九二）年

癸酉（二一九三）年

甲戌（二一九四）年

乙亥（二一九五）年

丙子（二一九六）年

丁丑（二一九七）年

戊寅（二一九八）年

己卯（二一九九）年

庚辰（二二〇〇）年

辛巳（二二〇一）年

壬午（二二〇二）年

癸未（二二〇三）年

甲申（二二〇四）年

乙酉（二二〇五）年

丙戌（二二〇六）年

丁亥（二二〇七）年

戊子（二二〇八）年

己丑（二二〇九）年

庚寅（二二一〇）年

辛卯（二二一一）年

壬辰（二二一二）年

癸巳（二二一三）年

甲午（二二一四）年

乙未（二二一五）年

丙申（二二一六）年

丁酉（二二一七）年

戊戌（二二一八）年

己亥（二二一九）年

庚子（二二二〇）年

辛丑（二二二一）年

壬寅（二二二二）年

癸卯（二二二三）年

甲辰（二二二四）年

乙巳（二二二五）年

丙午（二二二六）年

丁未（二二二七）年

戊申（二二二八）年

己酉（二二二九）年

庚戌（二二三〇）年

辛亥（二二三一）年

壬子（二二三二）年

癸丑（二二三三）年

甲寅（二二三四）年

乙卯（二二三五）年

丙辰（二二三六）年

丁巳（二二三七）年

戊午（二二三八）年

己未（二二三九）年

庚申（二二四〇）年

辛酉（二二四一）年

壬戌（二二四二）年

癸亥（二二四三）年

甲子（二二四四）年

乙丑（二二四五）年

丙寅（二二四六）年

丁卯（二二四七）年

戊辰（二二四八）年

己巳（二二四九）年

庚午（二二五〇）年

辛未（二二五一）年

壬申（二二五二）年

癸酉（二二五三）年

甲戌（二二五四）年

乙亥（二二五五）年

丙子（二二五六）年

丁丑（二二五七）年

戊寅（二二五八）年

己卯（二二五九）年

庚辰（二二六〇）年

辛巳（二二六一）年

壬午（二二六二）年

癸未（二二六三）年

甲申（二二六四）年

乙酉（二二六五）年

丙戌（二二六六）年

丁亥（二二六七）年

戊子（二二六八）年

己丑（二二六九）年

庚寅（二二七〇）年

辛卯（二二七一）年

壬辰（二二七二）年

癸巳（二二七三）年

甲午（二二七四）年

乙未（二二七五）年

丙申（二二七六）年

丁酉（二二七七）年

戊戌（二二七八）年

己亥（二二七九）年

庚子（二二八〇）年

辛丑（二二八一）年

壬寅（二二八二）年

癸卯（二二八三）年

甲辰（二二八四）年

乙巳（二二八五）年

丙午（二二八六）年

丁未（二二八七）年

戊申（二二八八）年

己酉（二二八九）年

庚戌（二二九〇）年

辛亥（二二九一）年

壬子（二二九二）年

癸丑（二二九三）年

甲寅（二二九四）年

乙卯（二二九五）年

丙辰（二二九六）年

丁巳（二二九七）年

戊午（二二九八）年

己未（二二九九）年

庚申（二三〇〇）年

辛酉（二三〇一）年

壬戌（二三〇二）年

癸亥（二三〇三）年

甲子（二三〇四）年

乙丑（二三〇五）年

丙寅（二三〇六）年

丁卯（二三〇七）年

戊辰（二三〇八）年

己巳（二三〇九）年

庚午（二三一〇）年

辛未（二三一一）年

壬申（二三一二）年

癸酉（二三一三）年

甲戌（二三一四）年

乙亥（二三一五）年

丙子（二三一六）年

丁丑（二三一七）年

戊寅（二三一八）年

己卯（二三一九）年

庚辰（二三二〇）年

辛巳（二三二一）年

壬午（二三二二）年

癸未（二三二三）年

甲申（二三二四）年

乙酉（二三二五）年

丙戌（二三二六）年

丁亥（二三二七）年

戊子（二三二八）年

己丑（二三二九）年

庚寅（二三三〇）年

辛卯（二三三一）年

壬辰（二三三二）年

癸巳（二三三三）年

甲午（二三三四）年

乙未（二三三五）年

丙申（二三三六）年

丁酉（二三三七）年

戊戌（二三三八）年

己亥（二三三九）年

庚子（二三四〇）年

辛丑（二三四一）年

壬寅（二三四二）年

癸卯（二三四三）年

甲辰（二三四四）年

乙巳（二三四五）年

丙午（二三四六）年

丁未（二三四七）年

戊申（二三四八）年

己酉（二三四九）年

庚戌（二三五〇）年

辛亥（二三五一）年

壬子（二三五二）年

癸丑（二三五三）年

甲寅（二三五四）年

乙卯（二三五五）年

丙辰（二三五六）年

丁巳（二三五七）年

戊午（二三五八）年

己未（二三五九）年

庚申（二三六〇）年

辛酉（二三六一）年

壬戌（二三六二）年

癸亥（二三六三）年

甲子（二三六四）年

乙丑（二三六五）年

丙寅（二三六六）年

丁卯（二三六七）年

戊辰（二三六八）年

己巳（二三六九）年

庚午（二三七〇）年

辛未（二三七一）年

壬申（二三七二）年

癸酉（二三七三）年

甲戌（二三七四）年

乙亥（二三七五）年

丙子（二三七六）年

丁丑（二三七七）年

戊寅（二三七八）年

己卯（二三七九）年

庚辰（二三八〇）年

辛巳（二三八一）年

壬午（二三八二）年

癸未（二三八三）年

甲申（二三八四）年

乙酉（二三八五）年

丙戌（二三八六）年

丁亥（二三八七）年

戊子（二三八八）年

己丑（二三八九）年

庚寅（二三九〇）年

辛卯（二三九一）年

壬辰（二三九二）年

癸巳（二三九三）年

甲午（二三九四）年

乙未（二三九五）年

丙申（二三九六）年

丁酉（二三九七）年

戊戌（二三九八）年

己亥（二三九九）年

庚子（二四〇〇）年

辛丑（二四〇一）年

壬寅（二四〇二）年

癸卯（二四〇三）年

甲辰（二四〇四）年

乙巳（二四〇五）年

丙午（二四〇六）年

丁未（二四〇七）年

戊申（二四〇八）年

己酉（二四〇九）年

庚戌（二四一〇）年

辛亥（二四一一）年

壬子（二四一二）年

癸丑（二四一三）年

甲寅（二四一四）年

乙卯（二四一五）年

丙辰（二四一六）年

丁巳（二四一七）年

戊午（二四一八）年

己未（二四一九）年

庚申（二四二〇）年

辛酉（二四二一）年

壬戌（二四二二）年

癸亥（二四二三）年

甲子（二四二四）年

乙丑（二四二五）年

丙寅（二四二六）年

丁卯（二四二七）年

戊辰（二四二八）年

己巳（二四二九）年

庚午（二四三〇）年

辛未（二四三一）年

壬申（二四三二）年

癸酉（二四三三）年

甲戌（二四三四）年

乙亥（二四三五）年

丙子（二四三六）年

丁丑（二四三七）年

戊寅（二四三八）年

己卯（二四三九）年

庚辰（二四四〇）年

辛巳（二四四一）年

壬午（二四四二）年

癸未（二四四三）年

甲申（二四四四）年

乙酉（二四四五）年

丙戌（二四四六）年

丁亥（二四四七）年

戊子（二四四八）年

己丑（二四四九）年

庚寅（二四五〇）年

辛卯（二四五一）年

壬辰（二四五二）年

癸巳（二四五三）年

甲午（二四五四）年

乙未（二四五五）年

丙申（二四五六）年

丁酉（二四五七）年

戊戌（二四五八）年

己亥（二四五九）年

庚子（二四六〇）年

辛丑（二四六一）年

壬寅（二四六二）年

癸卯（二四六三）年

甲辰（二四六四）年

乙巳（二四六五）年

丙午（二四六六）年

丁未（二四六七）年

戊申（二四六八）年

己酉（二四六九）年

庚戌（二四七〇）年

辛亥（二四七一）年

壬子（二四七二）年

癸丑（二四七三）年

甲寅（二四七四）年

乙卯（二四七五）年

丙辰（二四七六）年

丁巳（二四七七）年

戊午（二四七八）年

己未（二四七九）年

庚申（二四八〇）年

辛酉（二四八一）年

壬戌（二四八二）年

癸亥（二四八三）年

甲子（二四八四）年

乙丑（二四八五）年

丙寅（二四八六）年

丁卯（二四八七）年

戊辰（二四八八）年

己巳（二四八九）年

庚午（二四九〇）年

辛未（二四九一）年

壬申（二四九二）年

癸酉（二四九三）年

甲戌（二四九四）年

乙亥（二四九五）年

丙子（二四九六）年

丁丑（二四九七）年

戊寅（二四九八）年

己卯（二四九九）年

庚辰（二五〇〇）年

辛巳（二五〇一）年

壬午（二五〇二）年

癸未（二五〇三）年

甲申（二五〇四）年

乙酉（二五〇五）年

丙戌（二五〇六）年

丁亥（二五〇七）年

戊子（二五〇八）年

己丑（二五〇九）年

庚寅（二五一〇）年

辛卯（二五一一）年

壬辰（二五一二）年

癸巳（二五一三）年

甲午（二五一四）年

乙未（二五一五）年

丙申（二五一六）年

丁酉（二五一七）年

戊戌（二五一八）年

己亥（二五一九）年

庚子（二五二〇）年

辛丑（二五二一）年

壬寅（二五二二）年

癸卯（二五二三）年

甲辰（二五二四）年

乙巳（二五二五）年

丙午（二五二六）年

丁未（二五二七）年

戊申（二五二八）年

己酉（二五二九）年

庚戌（二五三〇）年

辛亥（二五三一）年

壬子（二五三二）年

癸丑（二五三三）年

甲寅（二五三四）年

乙卯（二五三五）年

丙辰（二五三六）年

丁巳（二五三七）年

戊午（二五三八）年

己未（二五三九）年

庚申（二五四〇）年

辛酉（二五四一）年

壬戌（二五四二）年

癸亥（二五四三）年

甲子（二五四四）年

乙丑（二五四五）年

丙寅（二五四六）年

丁卯（二五四七）年

戊辰（二五四八）年

己巳（二五四九）年

庚午（二五五〇）年

辛未（二五五一）年

壬申（二五五二）年

癸酉（二五五三）年

甲戌（二五五四）年

乙亥（二五五五）年

丙子（二五五六）年

丁丑（二五五七）年

戊寅（二五五八）年

己卯（二五五九）年

庚辰（二五六〇）年

辛巳（二五六一）年

壬午（二五六二）年

癸未（二五六三）年

甲申（二五六四）年

乙酉（二五六五）年

丙戌（二五六六）年

丁亥（二五六七）年

戊子（二五六八）年

己丑（二五六九）年

庚寅（二五七〇）年

辛卯（二五七一）年

壬辰（二五七二）年

癸巳（二五七三）年

甲午（二五七四）年

乙未（二五七五）年

丙申（二五七六）年

丁酉（二五七七）年

戊戌（二五七八）年

己亥（二五七九）年

庚子（二五八〇）年

辛丑（二五八一）年

壬寅（二五八二）年

癸卯（二五八三）年

甲辰（二五八四）年

乙巳（二五八五）年

丙午（二五八六）年

丁未（二五八七）年

戊申（二五八八）年

己酉（二五八九）年

庚戌（二五九〇）年

辛亥（二五九一）年

壬子（二五九二）年

癸丑（二五九三）年

甲寅（二五九四）年

乙卯（二五九五）年

丙辰（二五九六）年

丁巳（二五九七）年

戊午（二五九八）年

己未（二五九九）年

庚申（二六〇〇）年

辛酉（二六〇一）年

壬戌（二六〇二）年

癸亥（二六〇三）年

甲子（二六〇四）年

乙丑（二六〇五）年

丙寅（二六〇六）年

丁卯（二六〇七）年

戊辰（二六〇八）年

己巳（二六〇九）年

庚午（二六一〇）年

辛未（二六一一）年

壬申（二六一二）年

癸酉（二六一三）年

甲戌（二六一四）年

乙亥（二六一五）年

丙子（二六一六）年

丁丑（二六一七）年

戊寅（二六一八）年

己卯（二六一九）年

庚辰（二六二〇）年

辛巳（二六二一）年

壬午（二六二二）年

癸未（二六二三）年

甲申（二六二四）年

乙酉（二六二五）年

丙戌（二六二六）年

丁亥（二六二七）年

戊子（二六二八）年

己丑（二六二九）年

庚寅（二六三〇）年

辛卯（二六三一）年

壬辰（二六三二）年

癸巳（二六三三）年

甲午（二六三四）年

乙未（二六三五）年

丙申（二六三六）年

丁酉（二六三七）年

戊戌（二六三八）年

己亥（二六三九）年

庚子（二六四〇）年

辛丑（二六四一）年

壬寅（二六四二）年

癸卯（二六四三）年

甲辰（二六四四）年

乙巳（二六四五）年

丙午（二六四六）年

丁未（二六四七）年

戊申（二六四八）年

己酉（二六四九）年

庚戌（二六五〇）年

辛亥（二六五一）年

壬子（二六五二）年

癸丑（二六五三）年

甲寅（二六五四）年

乙卯（二六五五）年

丙辰（二六五六）年

丁巳（二六五七）年

戊午（二六五八）年

己未（二六五九）年

庚申（二六六〇）年

辛酉（二六六一）年

壬戌（二六六二）年

癸亥（二六六三）年

甲子（二六六四）年

乙丑（二六六五）年

丙寅（二六六六）年

丁卯（二六六七）年

戊辰（二六六八）年

己巳（二六六九）年

庚午（二六七〇）年

辛未（二六七一）年

壬申（二六七二）年

癸酉（二六七三）年

甲戌（二六七四）年

乙亥（二六七五）年

丙子（二六七六）年

丁丑（二六七七）年

戊寅（二六七八）年

己卯（二六七九）年

庚辰（二六八〇）年

辛巳（二六八一）年

壬午（二六八二）年

癸未（二六八三）年

甲申（二六八四）年

乙酉（二六八五）年

丙戌（二六八六）年

丁亥（二六八七）年

戊子（二六八八）年

己丑（二六八九）年

庚寅（二六九〇）年

辛卯（二六九一）年

壬辰（二六九二）年

癸巳（二六九三）年

甲午（二六九四）年

乙未（二六九五）年

丙申（二六九六）年

丁酉（二六九七）年

戊戌（二六九八）年

己亥（二六九九）年

庚子（二七〇〇）年

辛丑（二七〇一）年

壬寅（二七〇二）年

癸卯（二七〇三）年

甲辰（二七〇四）年

乙巳（二七〇五）年

丙午（二七〇六）年

丁未（二七〇七）年

戊申（二七〇八）年

己酉（二七〇九）年

庚戌（二七一〇）年

辛亥（二七一一）年

壬子（二七一二）年

癸丑（二七一三）年

甲寅（二七一四）年

乙卯（二七一五）年

丙辰（二七一六）年

丁巳（二七一七）年

戊午（二七一八）年

己未（二七一九）年

庚申（二七二〇）年

辛酉（二七二一）年

壬戌（二七二二）年

癸亥（二七二三）年

甲子（二七二四）年

乙丑（二七二五）年

丙寅（二七二六）年

丁卯（二七二七）年

戊辰（二七二八）年

己巳（二七二九）年

庚午（二七三〇）年

辛未（二七三一）年

壬申（二七三二）年

癸酉（二七三三）年

甲戌（二七三四）年

乙亥（二七三五）年

丙子（二七三六）年

丁丑（二七三七）年

戊寅（二七三八）年

己卯（二七三九）年

庚辰（二七四〇）年

辛巳（二七四一）年

壬午（二七四二）年

癸未（二七四三）年

甲申（二七四四）年

乙酉（二七四五）年

丙戌（二七四六）年

丁亥（二七四七）年

戊子（二七四八）年

己丑（二七四九）年

庚寅（二七五〇）年

辛卯（二七五一）年

壬辰（二七五二）年

癸巳（二七五三）年

甲午（二七五四）年

乙未（二七五五）年

丙申（二七五六）年

丁酉（二七五七）年

戊戌（二七五八）年

己亥（二七五九）年

庚子（二七六〇）年

辛丑（二七六一）年

壬寅（二七六二）年

癸卯（二七六三）年

甲辰（二七六四）年

乙巳（二七六五）年

丙午（二七六六）年

丁未（二七六七）年

戊申（二七六八）年

己酉（二七六九）年

庚戌（二七七〇）年

辛亥（二七七一）年

壬子（二七七二）年

癸丑（二七七三）年

甲寅（二七七四）年

乙卯（二七七五）年

丙辰（二七七六）年

丁巳（二七七七）年

戊午（二七七八）年

己未（二七七九）年

庚申（二七八〇）年

辛酉（二七八一）年

壬戌（二七八二）年

癸亥（二七八三）年

甲子（二七八四）年

乙丑（二七八五）年

丙寅（二七八六）年

丁卯（二七八七）年

戊辰（二七八八）年

己巳（二七八九）年

庚午（二七九〇）年

辛未（二七九一）年

壬申（二七九二）年

癸酉（二七九三）年

甲戌（二七九四）年

乙亥（二七九五）年

丙子（二七九六）年

丁丑（二七九七）年

戊寅（二七九八）年

己卯（二七九九）年

庚辰（二八〇〇）年

辛巳（二八〇一）年

壬午（二八〇二）年

癸未（二八〇三）年

甲申（二八〇四）年

乙酉（二八〇五）年

丙戌（二八〇六）年

丁亥（二八〇七）年

戊子（二八〇八）年

己丑（二八〇九）年

庚寅（二八一〇）年

辛卯（二八一一）年

壬辰（二八一二）年

癸巳（二八一三）年

甲午（二八一四）年

乙未（二八一五）年

丙申（二八一六）年

丁酉（二八一七）年

戊戌（二八一八）年

己亥（二八一九）年

庚子（二八二〇）年

辛丑（二八二一）年

壬寅（二八二二）年

癸卯（二八二三）年

甲辰（二八二四）年

乙巳（二八二五）年

丙午（二八二六）年

丁未（二八二七）年

戊申（二八二八）年

己酉（二八二九）年

庚戌（二八三〇）年

辛亥（二八三一）年

壬子（二八三二）年

癸丑（二八三三）年

甲寅（二八三四）年

乙卯（二八三五）年

丙辰（二八三六）年

丁巳（二八三七）年

戊午（二八三八）年

己未（二八三九）年

庚申（二八四〇）年

辛酉（二八四一）年

壬戌（二八四二）年

癸亥（二八四三）年

甲子（二八四四）年

乙丑（二八四五）年

丙寅（二八四六）年

丁卯（二八四七）年

戊辰（二八四八）年

己巳（二八四九）年

庚午（二八五〇）年

辛未（二八五一）年

壬申（二八五二）年

癸酉（二八五三）年

甲戌（二八五四）年

乙亥（二八五五）年

丙子（二八五六）年

丁丑（二八五七）年

戊寅（二八五八）年

己卯（二八五九）年

庚辰（二八六〇）年

辛巳（二八六一）年

壬午（二八六二）年

癸未（二八六三）年

甲申（二八六四）年

乙酉（二八六五）年

丙戌（二八六六）年

丁亥（二八六七）年

戊子（二八六八）年

己丑（二八六九）年

庚寅（二八七〇）年

辛卯（二八七一）年

壬辰（二八七二）年

癸巳（二八七三）年

甲午（二八七四）年

乙未（二八七五）年

丙申（二八七六）年

丁酉（二八七七）年

戊戌（二八七八）年

己亥（二八七九）年

庚子（二八八〇）年

辛丑（二八八一）年

壬寅（二八八二）年

癸卯（二八八三）年

甲辰（二八八四）年

乙巳（二八八五）年

丙午（二八八六）年

丁未（二八八七）年

戊申（二八八八）年

己酉（二八八九）年

庚戌（二八九〇）年

辛亥（二八九一）年

壬子（二八九二）年

癸丑（二八九三）年

甲寅（二八九四）年

乙卯（二八九五）年

丙辰（二八九六）年

丁巳（二八九七）年

戊午（二八九八）年

己未（二八九九）年

庚申（二九〇〇）年

辛酉（二九〇一）年

壬戌（二九〇二）年

癸亥（二九〇三）年

甲子（二九〇四）年

乙丑（二九〇五）年

丙寅（二九〇六）年

丁卯（二九〇七）年

戊辰（二九〇八）年

己巳（二九〇九）年

庚午（二九一〇）年

辛未（二九一一）年

壬申（二九一二）年

癸酉（二九一三）年

甲戌（二九一四）年

乙亥（二九一五）年

丙子（二九一六）年

丁丑（二九一七）年

戊寅（二九一八）年

己卯（二九一九）年

庚辰（二九二〇）年

辛巳（二九二一）年

壬午（二九二二）年

癸未（二九二三）年

甲申（二九二四）年

乙酉（二九二五）年

丙戌（二九二六）年

丁亥（二九二七）年

戊子（二九二八）年

己丑（二九二九）年

庚寅（二九三〇）年

辛卯（二九三一）年

壬辰（二九三二）年

癸巳（二九三三）年

甲午（二九三四）年

乙未（二九三五）年

丙申（二九三六）年

丁酉（二九三七）年

戊戌（二九三八）年

己亥（二九三九）年

庚子（二九四〇）年

辛丑（二九四一）年

壬寅（二九四二）年

癸卯（二九四三）年

甲辰（二九四四）年

乙巳（二九四五）年

丙午（二九四六）年

丁未（二九四七）年

戊申（二九四八）年

己酉（二九四九）年

庚戌（二九五〇）年

辛亥（二九五一）年

壬子（二九五二）年

癸丑（二九五三）年

甲寅（二九五四）年

乙卯（二九五五）年

丙辰（二九五六）年

丁巳（二九五七）年

戊午（二九五八）年

己未（二九五九）年

庚申（二九六〇）年

辛酉（二九六一）年

壬戌（二九六二）年

癸亥（二九六三）年

甲子（二九六四）年

乙丑（二九六五）年

丙寅（二九六六）年

丁卯（二九六七）年

戊辰（二九六八）年

己巳（二九六九）年

庚午（二九七〇）年

辛未（二九七一）年

壬申（二九七二）年

癸酉（二九七三）年

甲戌（二九七四）年

乙亥（二九七五）年

丙子（二九七六）年

丁丑（二九七七）年

戊寅（二九七八）年

己卯（二九七九）年

庚辰（二九八〇）年

辛巳（二九八一）年

壬午（二九八二）年

癸未（二九八三）年

甲申（二九八四）年

乙酉（二九八五）年

丙戌（二九八六）年

丁亥（二九八七）年

戊子（二九八八）年

己丑（二九八九）年

庚寅（二九九〇）年

辛卯（二九九一）年

壬辰（二九九二）年

癸巳（二九九三）年

甲午（二九九四）年

乙未（二九九五）年

丙申（二九九六）年

丁酉（二九九七）年

戊戌（二九九八）年

己亥（二九九九）年

庚子（三〇〇〇）年

辛丑（三〇〇一）年

壬寅（三〇〇二）年

癸卯（三〇〇三）年

甲辰（三〇〇四）年

乙巳（三〇〇五）年

丙午（三〇〇六）年

丁未（三〇〇七）年

戊申（三〇〇八）年

己酉（三〇〇九）年

庚戌（三〇一〇）年

辛亥（三〇一一）年

壬子（三〇一二）年

癸丑（三〇一三）年

甲寅（三〇一四）年

乙卯（三〇一五）年

丙辰（三〇一六）年

丁巳（三〇一七）年

戊午（三〇一八）年

己未（三〇一九）年

庚申（三〇二〇）年

辛酉（三〇二一）年

壬戌（三〇二二）年

癸亥（三〇二三）年

甲子（三〇二四）年

乙丑（三〇二五）年

丙寅（三〇二六）年

丁卯（三〇二七）年

戊辰（三〇二八）年

己巳（三〇二九）年

庚午（三〇三〇）年

辛未（三〇三一）年

壬申（三〇三二）年

癸酉（三〇三三）年

甲戌（三〇三四）年

乙亥（三〇三五）年

丙子（三〇三六）年

丁丑（三〇三七）年

戊寅（三〇三八）年

己卯（三〇三九）年

庚辰（三〇四〇）年

辛巳（三〇四一）年

壬午（三〇四二）年

癸未（三〇四三）年

甲申（三〇四四）年

乙酉（三〇四五）年

丙戌（三〇四六）年

丁亥（三〇四七）年

戊子（三〇四八）年

己丑（三〇四九）年

庚寅（三〇五〇）年

辛卯（三〇五一）年

壬辰（三〇五二）年

癸巳（三〇五三）年

甲午（三〇五四）年

乙未（三〇五五）年

丙申（三〇五六）年

丁酉（三〇五七）年

戊戌（三〇五八）年

己亥（三〇五九）年

庚子（三〇六〇）年

辛丑（三〇六一）年

壬寅（三〇六二）年

癸卯（三〇六三）年

甲辰（三〇六四）年

乙巳（三〇六五）年

丙午（三〇六六）年

丁未（三〇六七）年

戊申（三〇六八）年

己酉（三〇六九）年

庚戌（三〇七〇）年

辛亥（三〇七一）年

壬子（三〇七二）年

癸丑（三〇七三）年

甲寅（三〇七四）年

乙卯（三〇七五）年

丙辰（三〇七六）年

丁巳（三〇七七）年

戊午（三〇七八）年

己未（三〇七九）年

庚申（三〇八〇）年

辛酉（三〇八一）年

壬戌（三〇八二）年

癸亥（三〇八三）年

甲子（三〇八四）年

乙丑（三〇八五）年

丙寅（三〇八六）年

丁卯（三〇八七）年

戊辰（三〇八八）年

己巳（三〇八九）年

庚午（三〇九〇）年

辛未（三〇九一）年

壬申（三〇九二）年

癸酉（三〇九三）年

甲戌（三〇九四）年

乙亥（三〇九五）年

丙子（三〇九六）年

丁丑（三〇九七）年

戊寅（三〇九八）年

己卯（三〇九九）年

庚辰（三一〇〇）年

辛巳（三一〇一）年

壬午（三一〇二）年

癸未（三一〇三）年

甲申（三一〇四）年

乙酉（三一〇五）年

丙戌（三一〇六）年

丁亥（三一〇七）年

戊子（三一〇八）年

己丑（三一〇九）年

庚寅（三一一〇）年

辛卯（三一一一）年

壬辰（三一一二）年

癸巳（三一一三）年

甲午（三一一四）年

乙未（三一一五）年

丙申（三一一六）年

丁酉（三一一七）年

戊戌（三一一八）年

己亥（三一一九）年

庚子（三一二〇）年

辛丑（三一二一）年

壬寅（三一二二）年

癸卯（三一二三）年

甲辰（三一二四）年

乙巳（三一二五）年

丙午（三一二六）年

丁未（三一二七）年

戊申（三一二八）年

己酉（三一二九）年

庚戌（三一三〇）年

辛亥（三一三一）年

壬子（三一三二）年

癸丑（三一三三）年

甲寅（三一三四）年

乙卯（三一三五）年

丙辰（三一三六）年

丁巳（三一三七）年

戊午（三一三八）年

己未（三一三九）年

庚申（三一四〇）年

辛酉（三一四一）年

壬戌（三一四二）年

癸亥（三一四三）年

甲子

め、どこかに逃げて居なかった。ひどい扱いをしたから怒るのは当然……」と惠準尼は言う。「食べ物の上前まで跳ねて、食べ物の当時、喰べ物に上乗っ巷で、食べ物がなく、戦後ビルメンばトラネ足たで、すいの人が行にが、ヒ中0国0人ー難塔ルく与え隠れ埋葬、立ガセ池の流みち会なっの失惠を準尼にて言食べたわせたから言るとら、仏罰で死んだ言われ話のも。と人

中国人殉難墓誌銘

※熊谷組各務原作業所（揚明釈肝心小）三十九オ・・・

「歴代住職の墓碑」「中国人殉難塔」

昭和四三年七月吉日建立

建設発起人

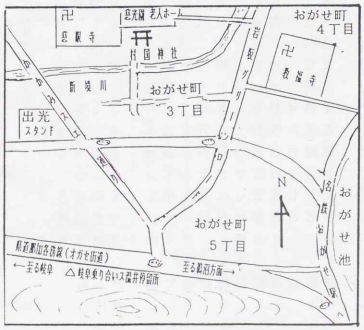
平野三郎
松尾義一
武藤吾郎
長知明
縄原惠
大野正雄
勝野春市
永井主計
長縄秀貞
長縄末一
左高伸弘

各務地区長
各務歴代区長

寶全山教福寺

教　福　寺

■各務原市各務東町四丁目廿八番地
■岐阜バス太田線おがせ停留所下車
北へ徒歩約二〇分
TEL・〇五八三（八四）一四九七



現　場　取　図

住職　黒田恵以
開宗　真宗大谷派
開山　真宗大谷派
基　証圓和尚（開立は一五三七年、当初は天台宗であった。）……一五三七年は天文六西暦にあたる。
本尊　〃　阿弥陀如来・本造（製作年・制作者不明）
並びに諸仏　聖徳太子本像（恵信僧都・作）・親鸞聖人絵像・蓮如上人絵像

歴代住職

初代（開基）　證圓和尚（天台宗）　寂年不詳

二代　惠明和尚（天台宗）

三代　惠了和尚（天台宗）

四代　城和尚（天台宗）

五代　法善尚（天台宗）

六代　意哲尚（天台宗）

七代　善和尚（天台宗）

八代　惠法師（以下浄土真宗に改宗）

九代　両丈法師

十代　天寂法師

十一代　圓学法師

十二代　高丈法師

十三代　順顕法師

十四代　智故法師

十五代　寂了法師

十六代　寂圓法師

十七代　寂融雄法師

十八代　寂道法師

十九代　寂定法師

二十代　慈鏡法師

二十一代　秀賢法師

二十二代　宜正法師

廿代　有承法師

廿一代　恵見法師（現住職）

文政六癸未（一八二三）年五月十九日寂

〃　天保十二辛丑（一八四一）年二月十二日寂

〃　慶應元乙丑（一八六五）年五月廿五日寂年不詳

〃　大正七戊午（一九一八）年四月廿五日寂

〃　昭和十七壬申（一九四二）年六月十九日寂

〃　庚辰（一九四〇）年三月十七日寂

〃　平成四壬申（一九九二）年六月十九日寂

（天台宗は、法師とは呼ばないので訂正）

寺宝は価値にあらず、信仰の顕現として尊拝している。

※阿弥陀如来本尊一体（鎌倉時代の作、作者は不明であるがその相好優れ、仏師も名のある者の作と云われている）

※聖徳太子像一体。

当寺の縁起に曰く。

山御厨子安置奉ル尊像ハ、太子十六才ノ御姿ニシテ、落涙ノ太子ト称シ奉ル。此ノ尊像ハ恵信僧都ノ御作ニシテ、一刀三礼ノ尊像ト申シ奉ル。

抑々其ノ盧舎那（ルシャナ）ヲ伺ヒ奉ルニ、其モト恵信僧都比叡山恵信院ヘ御出向ノ砌、皇太子空中ニ現レ給ヒ、御姿ヲ拝ミ奉レバ、光明赫々トシテ恵信ニ告ゲ給フ様、コレ其方道心深キガ故ニ吾レ汝ヲ守護スート。其ノ時恵信僧都感涙ニ咽バレ、其ノ御姿ヲ彫刻シ給ヒテ肌ヲ離サズ崇敬シ給フ。図ラズ不例ノ気マスマス枕辺ニ招キ給ヒ、追々病気重体トナラレ、臨終モ間近ニ及ンデ昵近ノ弟子堅生ヲ此ノ尊像ニ授与シ給ヒ、程ニ、吾ニ夫レ汝ハニ程ニ、永ク崇敬仕ヘント、思ヒシニ、会者定離ハ沙婆ノ習ヒナレバ、追付ケ浄土ニテ御礼申シ奉ラン、御暇乞ヒ申サレケレバ、流サレ給ヒシニヤ、木像御涙ヲ両眼ヨリハラリハラリト流サレ惜シミ給ヒ、堅生モ落涙シケナガラ、押シ戴キ、本国越国礪波郡三清了専寺ニ伝ワリ、アヒユ地セ給ヒ、美濃国ハ有縁ノ御姿ヲ一度拝シ奉レバ、御本地ノ如ク思ヒ召シ広大深重ノ慈悲ナレバ、ケルテ安置マカンニ彼処ニ移セトノ御告ヲ蒙リテ、直チニ此レヲ当山ニ移シ奉リ、群生ヲ導程ニ、然ニ夢ノ告ゲニ因ッテ、有縁ノ地ヲ、アリ、親シク御崇敬申シ奉ルナリ。

大悲救世観音菩薩願ニヨリ、一子ノ如ク思ヒ即チ我等衆生ヲ、入レ給フ、謝恩ノ思ヒヲ、各々称名諸共ニ謹ンデ拝礼ヲ遂ゲラレヨ。とあり。

※聖徳太子伝絵　八巻。
※法上人伝絵　四巻。
※国訳一切経　全巻。

（奥書きに国工当住寂静、天保三壬辰晩秋下旬養真老父融道とあり）

由緒

当寺は、天文四乙未（一五三五）年十月廿五日、天台宗の證圓和尚によって創立さ

れた。その開基せられた時代は、足利十二代将軍義晴（一一五二―一五四六）の時代で所属宗派も天台宗であった。美濃地方に大洪水があり死者弐万余人と伝えるのだという。天文四年二月には、天台寺伝によると人口の比例からすればその殆どが犠牲となった大惨事だという。

（寺の資料に天文四年は一五三七年とあるが、これは六年で一四で訂正する）

（寺の資料に天文十五年―天永元年、一一五四）

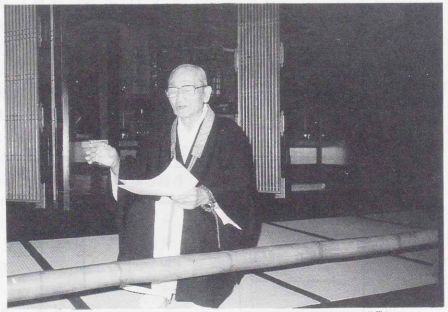
云うのいずれにしても、天台宗時代の記録がなくなったことは、開基の証拠、圓尚の詳細は、その伝及び俗姓についてのみ、元禄十年（一六九七年）以後のことは、檀信徒の記録は残されていない。真宗に改宗してから後年の、親鸞が三河の国柳の美濃三州矢矧浄土真宗の教えを説いたのは、嘉締元（乙未年（一二三五）三月三日）に草庵を結ばれて化導をされた。天台宗から浄土真宗に転宗した寺が多くある。当宅（河）に那加地区でも法蔵寺・覚王寺・善休寺・西入坊・弘長寺・浄土・真宗の宗祖「親鸞聖人」は、時親鸞と同じ教えに賛同して転宗した寺院は、なお浄土・真宗の宗祖「親鸞聖人」は、時親鸞と同じ教えに賛同して転宗した寺院は、などがあり、二年（一二六二）の十一月に齢いい九〇才で示寂と歴史は伝えている。

聖徳太子本像

法要

＊一月一日（修正会）
＊四月二日（春季永代経）
＊九月廿三日（秋季永代経）
＊十一月三日（報恩講）

歴代住職の墓碑

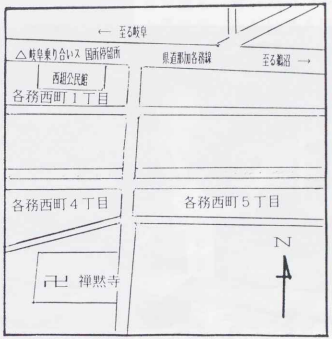


在りし日の釈有承法師（平成3年3月21日・歴史サークル訪問）

壁立山禅黙寺

■各務原市各務西町四丁目二六〇番地
岐阜乗り合いバス国所下車「油屋酒店前」
南へ徒歩約七分
TEL・〇五八三（　　）

禅　黙　寺



現　場　見　取　図

住職　無住
山中清州兼務住職（江南市扶桑町の細泉寺か……？）
宗派　臨済宗妙心寺派
開山　壁立祖仞和尚（寺伝では、大安寺第六代）？
開基　壁立祖仞和尚　祖海知蔵禅師？
本尊　弥勒菩薩（製作年不詳）
その他諸仏、如来の石佛（前田利家の家臣の物という説あるも詳細不明）

歴代住職（歴代順についても墓石や他の便りで正確な保証はない）

開山　壁立祖仞和尚　寶永元甲申年十月十三日……示寂
開山（？……墓石による）　施主祖海知蔵禅師　享保二丁酉年八月廿八日……示寂
當庵中興　月岫圓和尚　延享三丙寅年九月廿五日……示寂
三代　達道梅光首座　（この頃、約百年の空白あり）
當庵再中興　大令和尚　安政六己未年（一八五九）年四月廿一日……示寂
天保十四癸卯年（一八四三）年一月廿四日……示寂
（墓碑が割れていて接いである）
當庵四代　芳道祖春尼首座　明治廿六癸巳年（一八九三）年七月廿八日……示寂
當庵五代　篤應義保尼首座　觀音像

當竜六代　瓊巌祖珉尼首座……示寂年など不明
當竜七代　孝温龍道尼首座……示寂年など不明
當山八世　即心是空禅者　雪道尼　……示寂年など不明
當山前庵主　妙心前道松　差座元禅尼　昭和三一丙申年（一九五六）年二月廿三日……示寂
當山九代　妙心塔主法嶽俊尼和尚禅師（五島浄尼）平成四（一九九二）年十一月十五日……示寂
當山十代　妙心塔主宏泰浄尼和尚禅師　平成三（一九九一）年一月十二日……示寂

この宏泰浄尼は、九代の督浄尼の後を継ぐべき人であった。我々歴史サークルで当寺を訪れた平成二年十二月廿二日の朝、本堂前に降雪を掃いておられて倒れ、翌三年一月十二日に、後継の齢八十一才で亡くなられた。後に残された九代の督浄尼はこの年、明けて平成四年齢八十一才になり、本堂も取りこわされて、現在は新しい本堂が建っている。詳細は不明だが、江南市の関係寺の住職が兼務と聞く。

（その他）

の部分三代、達道梅光尼座の墓碑の横に、歴史サークルで訪問した当時は、五輪塔の頭われる。以下参考の為、その脇に三体があった。墓碑がありこれらは寺の縁故者のものと思

＊＊月光了夢信士　安永二癸巳年七月十四日。
＊祐室貞實信女　安永三甲申年八月十四日。
（碑の裏に・尾州丹羽郡山名「やな」村、市川新左衛門一子）

＊梅叟壽林信士　享保十七壬子年四月十五日。
＊日材遊心信女　元文元丙辰年八月廿七日。
＊一念不生信女　元文三戊午年七月廿八日。

＊松室貞琴大姉　昭和廿八癸巳年三月九日没。
＊安藤ことと子　行年三十九才。
（碑の裏に・昭和六十三年五月吉祥日　子供一同。）

寺宝

※如来の石佛（口伝としては前田利家の家臣が江南にいて、縁があってこの地に至り、この寺に祀っている）

由緒

寺籍には享保元年（一七一六）の創建で、開山は鵜沼村大安寺第三十三世壁立和尚（ゆきりゅう）を請じた。禅黙入道の開創となり、後に至り愛知丹羽郡扶桑村龍泉寺月岫和尚（げっしゅう）転住して本寺中興となる。以来当寺は龍泉寺の末寺となる。

★享保元年（一七一六）開山と壁立和尚
★寛文十（一六七〇）年、大安寺第五代の石叟宗根による。

戊辰（一六六八）年、大安寺の資料によると、壁立和尚は享保七（一七二二）年、大安寺の後を継いだ第六代となっている。

十月十三日に逝去しての墓碑に開山とある。

十二年も前に死んでいる者が開山は有り得ない。むしろ祖師海知蔵和尚が妥当。

（編集者記）

井戸の寺で、地芝居もしていた。

と庫裏寺は、昭和廿二年の農地解放によって寺領も減ってしまったが、昔は大きな本堂もいう裏手にはあって使っていた。なお、禅黙寺の南には郷倉もあった。

くのうちとは、井戸もあるが、古墳は童たちの格好の遊び場でもあった。古攻められの禅黙寺の裏には古墳、状、昔の山があるが、織田信長が岐阜城攻め、永禄十年、織田信長が岐阜の斎藤龍興を攻ったの言伝えによると、この付近でも戦いがあり、戦死した沢山の人達を葬った塚（墓地）の言うの折り、この付近でも戦いがあり、戦死した沢山の人達を葬った塚（墓地）と言説とがある。しかし、発掘はされていないので詳しいことは分からない。

古墳説

日録

＊無住のため現在は不詳

善太郎こと九郎、五余
（父様は尊敬まれ、下上で善勝とんがでし、）
（平成二年十二月廿二日に聞く：信者の市橋詣し参って向かって菩薩に弥勒菩薩さまから尊程の御本尊の弥勒菩薩に菩薩と御本尊の弥勒菩薩さまから届く。）

私たちの祖先は、帯屈流れ、薄黄色光明拝、流れ流れ、流れ流れ、流れ流れ

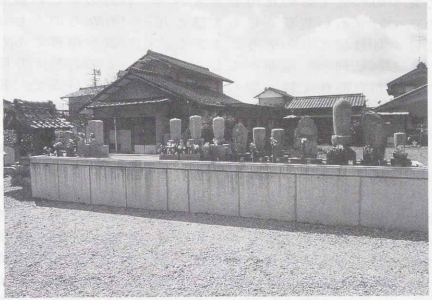
……寺院銘記石柱 ⇩

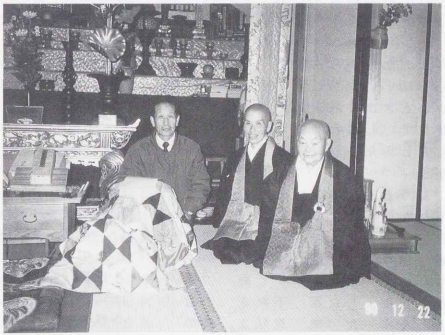
◆壁立山禅默寺

裏面「五島祖俊尼　五島督浄尼」両師遺産以本堂改築者也

平成八年四月八日　兼務住職　山中清州

歴代住職墓碑



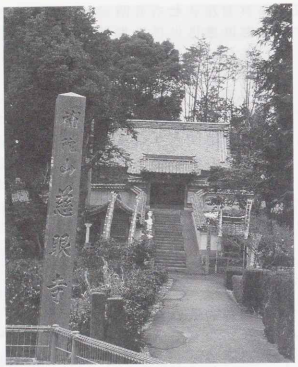


ありし日の九代庵主右と十代庵主・左端は足立秀成さん

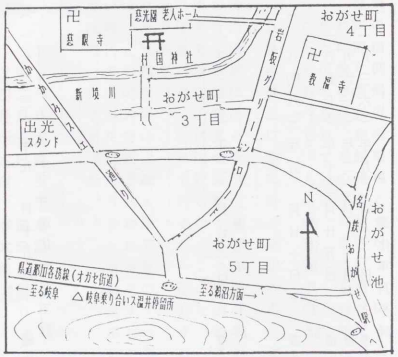
補陀山慈眼寺

■各務原市各務おがせ町三町目二五番地
名鉄電車各務原線おがせ駅下車
北東へ徒歩約三〇分（村国神社西）
TEL・〇五八三（七〇）三三八〇

住職　宗派　曹洞宗　宮崎證堅
開基　開山　黎山雪大和尚（龍泰寺二十世）
本尊　奉　十一面観世音菩薩
並びに諸仏　釈迦如来・水子地蔵尊。



慈　眼　寺



現　場　見　取　図

歴代住職

開山……鷲山雪大和尚（ゴウサンセン）……遷化年月日不詳

二世……月船良大和尚……〃

三世……龍山門良官大和尚……〃

（中興）

四世……享保八癸卯（一七二三）年九月十五日……遷化年月不詳

五世……道密志大和尚……〃

六世……龍岳光大和尚……〃

七世……鐵運長大和尚……〃

八世……泰翁牛大和尚……〃

九世……龍峯春大和尚……〃

十世……龍水道大和尚……〃

十一世……達道本大和尚……〃

十二世……禪寶仙大和尚……〃

十三世……恵海豊大和尚……〃

十四世……智鮟大和尚……〃

十五世……達光大和尚……〃

十六世……曇華瑞大和尚……〃

十七世……高源嶺大和尚……〃

十八世……一保本大和尚……〃

十九世……如牛残大和尚……〃

二十世……如山麟大和尚……〃

（西中興）

廿一世……祥岳瑞麟大和尚……〃

廿二世……昭和三六年二月一日……遷化

廿三世……昭和十一丙子（一九三六）年九月十二日……遷化年月不詳

廿四世……泰山浩道高和尚……〃

廿五世……麒山忠麟大和尚……〃

廿六世……梵戒證堅大和尚（現住・立碩心）……〃

廿世……平成八丙子（一九九六）年七月十一日……遷化

寺宝

特になし

由緒

住職は、養老年間（七一七年～七二四年）に泰燈来たりて草庵を結び居る。

第二十世和尚を請じて開山とし、泰燈和尚をもって開基としたと記録している。

各寺務村史によれば、度々の火災に遭い、詳細な記録は一切残っていない。

寺は元和七年（一六二一）に至って、十九世の献山和尚がこれを再興し、龍泰寺の鷲山雪和尚を請じて開山とし、泰燈和尚をもって開基としたと記録している。

現在の慈眼寺は、今日まで法灯を守ることが出来、住民の信仰帰依の聖場ともなっている。

結果、現在の慈眼寺は旧暦七月十八日の盆に際し、施餓鬼を営み、併せて祖先の霊を判断し、

あるこの福寺は、その年の豊作を祈る。

秋の祭礼は、冥福を余興なども協議して、

村人の眼寺は、昔から地域に密着し、

寺呼ばれて、慈眼寺の住職が行う

ことも伝えられて、人々は慈眼寺のことを

かつて寛政期（一七八九年～一八〇一年）の五島相模正以前には、

鶴見結び所在が、所属国神社の神主曹洞宗の本山役目福勤めて

現在の所有者は、吉田郡福井県の

深山の大本山永平寺と、横浜市

き白山権現は、十一面観音の化身だと云われて古くから信仰されて

いお山寺は、本地垂迹（治時代には奉燈に基づく）

慈眼寺は、因縁が慈眼大師尊像であること

慈眼寺は、本尊は、十一面観音であると

尚て、翌年に興さ元和七年は、御水尾天皇の十一年。

川幕府二代将軍秀忠の大殉教、云われる

五十人の長崎支えと処刑救いなど、暗くて

徳川幕府の後期で、こっの時代であった。

民の心の支えとなり、

庶民の心が

縁日（年中行事）

「慈眼寺」

※一月八日・十八日……大般若法会。

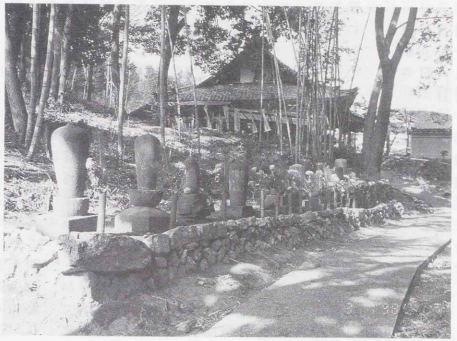
※二月三日・十六日……節分星祭り。

※四月十六日・夏大祭。

※七月十六日・十八日……御施食法会。御開山忌法会。

「八大龍王本殿」

歴代住職墓碑



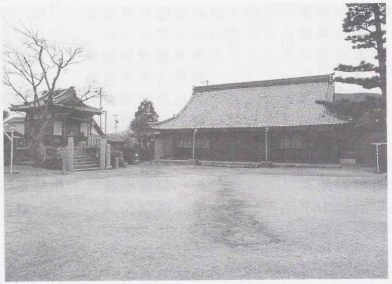
寺内の一角に祀られている水子地蔵尊

龍門山洞谷寺（どうこくじ）

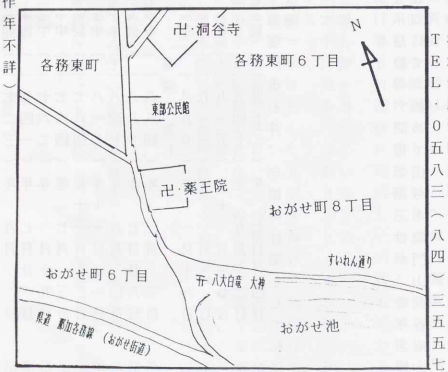
■岐阜乗り合いバス美濃加茂行
おがせ駅停留所下車、北へ徒歩三〇分
TEL・〇五八三（八四）三五五七

各務原市各務東町六丁目一ノ一二五

住職　大野祥賢
宗派　曹洞宗
開山　龍山慈門尼大和尚
基本尊　聖観世音菩薩（製作者・製作年不詳）
並びに諸仏　弘法大師・水子地蔵



洞谷寺



現場見取図

歴代住職

開山　龍山慈門大和尚　享保八癸卯（一七二三）年九月十日示寂

二世　智運明山法尼大和尚　寛保元辛酉（一七四一）年七月廿一日示寂

三世　慈眼他大運主大和尚　明和元甲申（一七六四）年七月十九日示寂

四世　青道唯心庵主　天明四甲辰（一七八四）年一月十三日示寂

五世　慧室清秀林上尼座　弘化四丁未（一八四七）年五月四日示寂

六世　重興明山鉄心尼座　文政九丙申（一八二六）年一月十三日示寂

七世　鉄雲道芳尼座　明治十七甲辰（一八八四）年七月廿八日示寂

八世　梅斎秀光尼座　明治廿三庚子（一八九〇）年一月十九日示寂

九世　如法貞瑞尼座　大正二癸丑（一九一三）年一月三日示寂

十世　仙英瑞苗尼全座　大正四乙卯（一九一五）年十一月三〇日示寂

十一世（中興）　龍雲鏡苗尼座　昭和二丁亥（一九二七）年九月廿四日示寂

十二世　徳芳祖光尼和尚　昭和廿七壬辰（一九五二）年七月廿四日示寂

十三世　孝祐尼和尚　（埼玉県坂戸市石井、宗福寺住職として転住。現住職）

十四世　本明祥賢尼大和尚

寺宝……別に無い。

由緒

今を去ること約三〇有余年まえ、本願寺（慈眼寺）開祖の第三世が、晩年当庵に隠居せられる。これ即ち開山の龍山慈門大和尚にて、始めて山号を龍門山洞谷庵と称する。

時あたかも享保三年（一七一八）なり、その後享保八年の九月に、開祖大和尚老衰せられ、興（一七一二）年十二世の中興・徳芳祖光尼大和尚に至る約二五六年、寺の開（一七一三）に、この昭和廿一年（一九四六）に、住職に就かれて、一般信徒の寄付を仰ぎ、現在の本堂を再建している。

地元民の語るところによると、この頃には農繁期を迎えると寺は保育所を開設していたという。当時寺では、和尚尼が地元民に習字を教え、婦女子には裁縫等も教えていた。

なお時代は逆上り、開祖以後信徒は此の院内に舞台装置を仕組むなど、祭典の余興番伝統には村民に解放していた。当時の青壮年層は、こうした舞台装置を利用して練習することを通例としていた。

なお往時を知る人によると、戦前には舞台装置も跡を消していたと云う。

シテ変遷を見たが、戦後に至っては、本堂は、航空隊の菊地部隊に充てられ、第二次大戦へ太平洋戦争）が起きると、本堂は、航空戦後の物資の集積場になっていたが、敗戦を迎えると、しばらくして引き揚げられ寺は平和の日を迎えるに駐軍の本部に変わり、時代は変わると共に、村国座に移行し、時代も変わる。

その後、この頃には農繁期を迎えると寺は保育所を開設して

縁日並びに主な行事

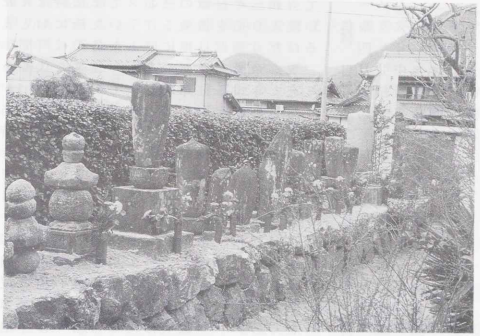
※四月の第三日曜日　弘法大師祭（祈祷の後、四二、廿五、八才の男子が厄落としの餅を撒く。

※年中行事　＊節分会。＊初観音。＊初弘法。＊彼岸会。＊潅仏会。＊涅槃会。＊盆施食会。

その他

＊寺内には弘法堂、水子地蔵堂、秋葉社がある。

歴代住職の墓碑



弘　法　堂

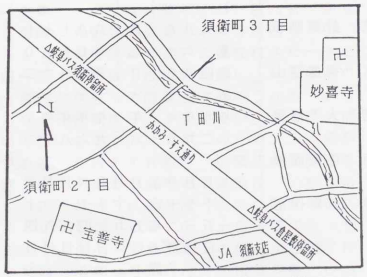
野頂山寶禪寺

（中濃第九番霊場）

■各務原市須衛町二丁目三八五番地
岐阜バス各務すえ通り倉屋敷下車
南へ徒歩約二分
TEL・〇五八三（七〇）三三八〇・（慈眼寺内）

寶　禪　寺

住職　慈眼寺住職兼務
宗教　曹洞宗
開山　瀬遍上人（墓碑に開山とあり……不詳）
開基　……各務史には證円法師・？　天文四（一五三五年）とある）
本尊　十一面観世音菩薩
並びに諸仏　弘法大師・地蔵菩薩・三十三観音・他



現　場　見　取　図

歴代住職

―墓碑よりの調査のため順位その他についての確証はない―

当山二世	瀬戸上人（墓石碑に開山と記す）	示寂年不詳	
当山三世	阿闍梨良雅	〃	
当寺四世	阿闍梨法及	〃	
当山二世	阿闍梨良存	〃	
第六世	權大僧都	不詳	
第七世	阿闍梨贈印	寛文十癸酉年（一六七三）	元禄十五壬午年（一七〇二）
当山八世	霧南海針	寛文十癸酉年（一六七三）	宝暦六丙子年（一七五六）
良全開住	大嶺自尼	寛文十癸酉年（一六七三）	安永七戊戌年（一七七八）
当寺三世	祖室妙宗	寛文十癸酉年（一六七三）	寛政三辛亥年（一七九一）
当菴四世	全心望定	寛文十癸酉年（一六七三）	寛政三辛亥年（一七九一）

一法徳順尼	鐵巌上座	寛文十癸酉年（一六七三）	寛政三辛亥年（一七九一）
他に法弟子尼僧のものと思われる墓碑あり		寛文十癸酉年（一六七三）	寛政三辛亥年（一七九一）

寺宝

＊十一面観音菩薩像	弘法大師御自作木造	体
＊弘法大師像		体
＊御前立本尊		体
＊地蔵菩薩像		体
＊釈迦大師像		体
＊誕生仏		体
＊石佛金像		体
＊十六善神像		体
＊釈迦出山佛		体

由緒

通拝大悲尊像	埜頂空海平時新堂	寶禪密寺
落成	針禅人住茲	寶禪小密乗滞密而邊

（譜）禮（恵）霊感貴 新堂映日射渚天

伝たと書かれた額の書

文久年間に書かれる額の書

一般に呼ばれている宝禅寺（資料に弘法大師作と云う）が、現在は無住寺で、本尊は安置されている。面観世音菩薩を中心に慈眼寺の住職を兼務されている。

前後に僧尼の名徳位教授の時に代表者の名前が記されている。

開山、川円覚上人（墓碑には瀬戸上人）が晴れて寺院を開山されたと記されている。

尚、開山、破坂文殊菩薩を本尊とする。

もと宗の六世の墓碑に向年の各村名が分れて会泉桁寺村の各寺院の建て会泉桁寺村の各寺院の建て会泉桁寺村の各寺院の建て

＊僧都は綱一つで、天台宗時代に生き活躍した豪族蘇我氏の中央

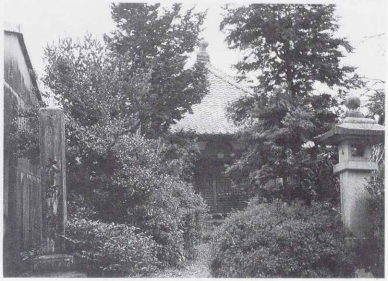
最澄は大師と尊称され、鑑真和尚の教えを受け、後に天台宗を開き、日本天台宗の開祖となった。

高僧は、大師の宗教論争を通じて、この地方の人々の信仰を集め、延暦寺の僧侶となり、その後、都に戻り、大僧都に任じられ、四十二年間

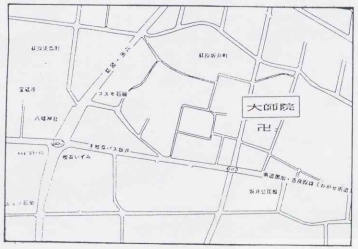
金剛山大師院

■各務原市蘇原坂井町一丁目一七六番地
岐阜バスおがせ街道坂井下車
北東へ徒歩約七分信号左入り
TEL・〇五八二（八四）六二六

住職（無住）
宗派（清見寺住職兼務）
開山（高野山派）
本尊（小林慶峰（昭和八「一九三三」年八月
基（高野治三郎・可児郡支部講中……？）
弘法大師（立像三尊形式）
並びに諸仏



大師院



現場見取図

歴代住職

……本人のみで後継者も無い状態。

寺宝

……従って無住につき無い。

由緒

依拠寺（庵）は真言宗高野山派の末寺だと云う、開山は小林慶峰。本人は弘法大師に帰依して高野山で修行した後、在地に小庵を建て、大師院と名付けて晩年を過ごしたと云う。故郷の坂井に戻り、現本尊の弘法大師立像は三尊形式であるが、損傷もひどくて目下修理中と云うが詳細は不明である。堂宇の前の空き家は空置のため、開山死後は後継者がいないとして無住職状態で当寺は弘法大師院の真言宗高野山派の末寺にして被包括法人となっている。

該当する山の清見禅寺は黄檗宗大師院登録番号は一九八三号で、法人代表役員は小林慶峰。黄檗宗末寺は昭和廿八年九月七日。登録番号は一九八三号で、法人代表役員は小林慶峰。黄檗宗末寺は昭和廿八年九月七日。登録

縁日等

＊前記の事情により、そうした年中行事は無い。

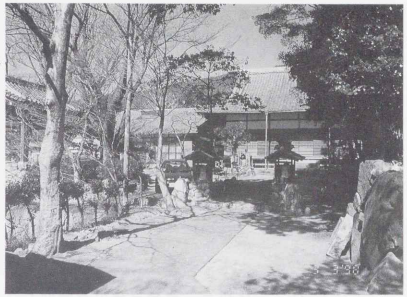
住職の墓碑

＊此の場所には無い。

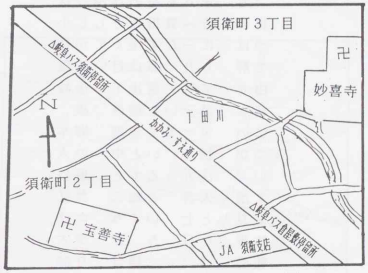
樹王山妙喜寺

（元・医王山薬師寺）

■各務原市須衛町三丁目五五三番地
岐阜乗り合いバス各務須衛通り線
倉屋敷下車北へ徒歩十分
TEL・〇五八三（八四）〇七四〇



妙喜寺



現場見取図

住職

開宗　武内正弘師
開済　臨宗妙心寺派
開山　雪江宗深禅師（妙心六世の祖）
基山　桂岳林庵主（石田三成の舎弟）
本尊　当山住職
尊　前住　清州和尚禅師
薬師如来（製作者は行基菩薩と伝えるが不詳）
並びに諸仏　三世　中興開山愚堂国師
釈迦牟尼如来・十二仏将・他　四世　五世　重興　薬師公首座
六世　了玄勤哲主座
七世　壽牛和尚禅師
八世　前住　当山忠道和尚禅師

歴代住職

九世　龍洞五世真芳楚宗大和尚
十世　前住当庵黄道和尚禅師
十一世　祥山玉瑞尼上座
十二世　瑞泉耕翁和尚大禅師
十三世　当山中興　前住妙心隻山成和尚大禅師
十四世　（現住職・武内正弘師）

文明十八　丙午（一四八六）年六月二日……寂
慶長元　申　五月（一五九六年）……寂月不詳年不詳
寛文元　辛丑（一六六一）年十月一日……寂
寛延元　戊辰（一七四八）年十一月十二日……〃寂
天保四　癸巳（一八三三）年七月廿八日……〃寂
天保五　甲午（一八三四）年十月……行年百五才八日……寂
明治十八　乙酉（一八八五）年十月十八日……寂
明治三三　庚子（一九〇〇）年（旧）八月五日・八十四才……寂
昭和五二　丁巳（一九七七）年八月廿二日……寂

由緒

当山の由来は、防州佐波郡石田邑の産、石田治部少輔三成の舎弟で石田彦左衛門三就の開基だと伝えられている。由来記によると、石田家は元防州の佐波郡の石田邑（ゆら）の郷主であって、その石田治部正（少）輔三成と舎弟の彦左衛門孫三就永禄五年の秋八月、久吉公の周旋で、石田邑の全久寺の開基でもある。またまが織田信長に仕えたと書かれている。文書にある久吉公は秀吉のことで、久吉とは、

宝寺

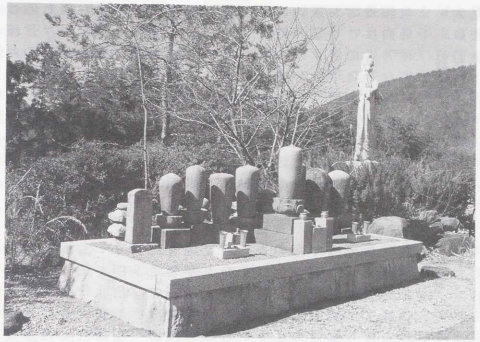
＊本尊薬師如来像。（主なる仏像）
＊釈迦牟尼如来像。＊延命地蔵願王大菩薩。＊日光・月光両天子。
＊妙喜開山仏日真照本源円通国師木造。＊四大天王像。
＊再興開山諡授円覚性樹王無禅師木造。＊十二仏将像。

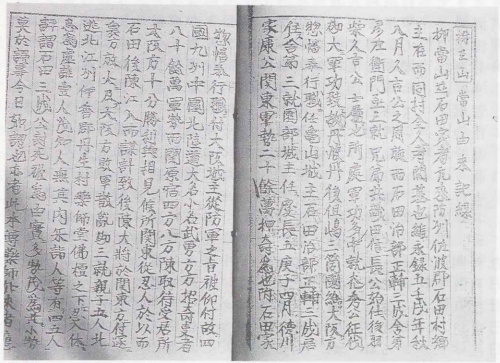
歌舞伎名手本の太閤記十段目では秀吉を久吉と語っている。従ってこの間違いと思われる。

功　実　田　そ　餘　園　部　騎　城　田　三　成　も　舎　弟
石　の　方　し　夏　率　主　り　に　任　押　じ　波　丹　彦
石　こ　も　慶　方　夏　率　主　り　に　任　押　じ　波　丹　彦
田　る　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
方　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
夏　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
率　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
主　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
り　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
三　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
成　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
陣　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
に　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
に　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
至　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
て　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
任　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
じ　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
押　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
し　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
し　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
ら　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
・　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
弟　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦
彦　て　語　長　後　て　を　城　田　三　成　も　舎　弟　彦

六　〇　〇　年　致　夏　七　月　に　自　軍　の　裏　の　彦　秀

歴代住職墓碑

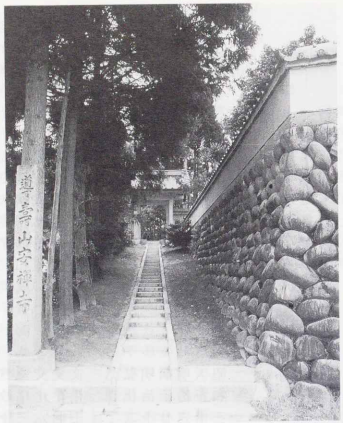




明治２６年、再興時に書かれた由来記録

導壽山安禅寺

住職　佐藤文雄
宗派　臨済宗妙心寺派
開山　體道宜全禅師（少林寺中興二世）
基本尊　深尾八右ヱ門尉（仙林道樹居士　寛文十庚戌「一六七〇」年十一月十三日没）
聖観世音菩薩
並びに諸仏
阿弥陀如来・弘法大師



安　禅　寺

■各務原市須衛町四丁目一九五番地
岐阜乗り合いバス各務スエ通り線
倉屋敷下車東南へ徒歩十分
TEL・〇五八三（八四）八七九四

現場見取図

歴代住職

◎開山　體道宜全大和尚禅師（◎印は正統と思われる住職。他は一時在住の系譜…？）
　　延寶四丙辰年十一月十二日…寂
◎贈和尚の子　予首座　元禄十六癸未年十一月十六日…寂
＊少林禅寺　屋空随天　永三丙戌年十一月十六日…寂
＊〃　盤山規和尚　享保八癸卯年十二月十一日…寂
＊〃　圓圭義端和尚　寶暦十甲辰年十一月廿三日…寂
◎中興　乳峰玄慈和尚　寛天明四丙申年十一月廿四日…寂
　　旭音王制和尚　寛政二庚申年十一月十五日…寂
◎　潮音点了和尚　文化十己巳年十一月十日…寂
◎　渕黙和尚　文化六己未年十一月十八日…寂
◎　普岩和尚　文化七庚午年十一月廿二日…寂
◎肥後国人竹寺住　玄峰宗献和尚　文化十五戊寅年七月廿八日…寂

◎俗名深尾安五郎　大山天面寺住職の隠居…義謙和尚の師
＊分法の師　少林寺十四世　門興中分法第一世
◎分法第二世　讓和尚　希寛　正道
◎分法第三世　亮謙和尚　仁州　寿岳
（現住職…佐藤文雄師）　布山大禅師　雲和尚　首座
　　昭和三丁未年十一月十三日…寂　正治八辛巳年九月廿七日…寂
　　明治三庚申年十一月十日…寂　明治廿八乙巳年十一月廿九日…寂
　　明治十四辛巳年十一月十七日…寂

註…文化十五年は四月廿二日に文政と改元されている為、五月から十二月までは文政元年となる―

寺宝

＊蓮如上人自筆の阿弥陀如来の軸。……阿弥陀如来の書き添え……桐箱の墨書……濃厚見切通村
同名号蓮如上人筆寄附……森氏謙治良……他要堅不許

蓮如上人自筆の書

導壽山安禅寺　什寶

由緒

催行…愚堂老師…大法要に…役職者…誓願…立…建…携…流…禅寺…興山…道禅師…が…に…参ず。
深尾…法…門…尉…願…正…妙…禅師…寺…宗…派…請…に…の…地…の…
各…八…右…ヱ…ま…た…た…こ…と…を…法…山…心…禅…し…図…
村…ヲ…は…ま…ま…ま

当山従来、平僧地（平僧寺・修行僧の寺で、僧として資格を得てから住職となる本派法地寺へ段階を積む）タリシヲ似テ、少林寺十四世（尭翁慧定禅師）ヲ分法シミ進ニ分法の師トナス。（原文は分法第一世とあるが、第一世は、再中興

の讃嶽和尚である）本派寺班五等ニ昇進、而テ今日ニ至ル。……以下略。

なお当寺は、深尾氏の直系で法名、仙林道寿居士と申す人が、歳老いて仏門に帰依し、新加納の臨済宗妙心派龍慶山少林禅寺（末寺）と共に、自立して建立されている。

当寺の開山は宜全禅師と共に、開基となったと伝えられる。

少体道和尚の代に本堂を再建。（昭和五十三年戊午（一九七八）年に分法第三代の

林寺の開山は道元禅師。興織田信長の兵火を浴び、伽藍も焼失した。

自寺を寛永年間に勧請された中興の祖となった高僧で、他に山脇の松如く本寺・大野

得寺なる。

寺の安禅寺去った開山に請い中興の延宝四丙辰（一六七六）年に、少林

禅寺世は、昭和八癸酉（一九三三）年から同十二丁丑（一九三七）年にかけて分法

安禅寺布山亮和尚の代に本堂を再建。（昭和五十三戊午（一九七八）年には開山堂兼・位牌堂を新築。その

現住職が裏の新築門を同五十九甲子（一九八四）年に新築し現在に至っている。

平成十年春

※その他

平僧寺……（修行僧が資格を得るため修行の寺）

法僧寺……（住職としての有資格者の寺・当寺は、再中興の讃嶽和尚の人禅師が分法第一世）

安禅寺……は、村寺でもある。

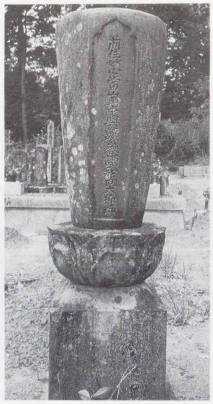
は、宗派は異なっていても阿弥陀如来は真宗の本尊であるが、地方で村人に門戸を開いている。

縁日

＊弘法忌（年中行事）

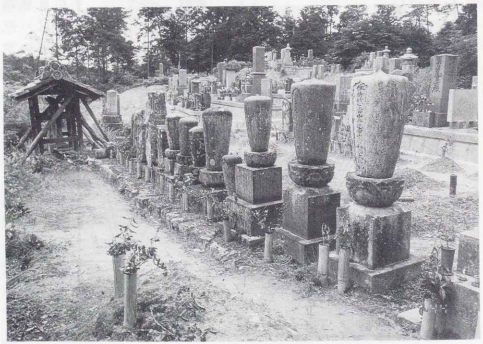
＊盆施餓鬼（四月廿一日・七月・八月）行事として餅撒きも行う。盆の行事を施行）

歴代住職墓碑



再中興讃嶽和尚禅寺墓

地蔵菩薩



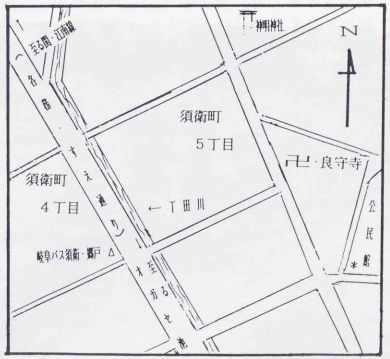
歴代住職墓碑

慈雲山良守寺

■岐阜バス須衛郷戸（各務原市須衛町五丁目三〇八番地）下車
北東へ徒歩約十分（各務すえ通り）
TEL・〇五八三（八五）〇四二八

住職　渡辺良光
宗派　曹洞宗
開基　普門六世慈門密雲大和尚
開山　護山良守居士（延享五戊辰六月十四日遷化）
本尊　聖観世音菩薩
並びに諸仏　弘法大師・文殊菩薩・普賢菩薩・子育地蔵尊

良　守　寺



現場見取図

歴代住職

開山　慈門密雲大和尚　天明四甲辰（一七八四）年三月四日遷化
初代（中興）　文政三庚辰（一八二〇）年九月廿四日遷化
二世　月心自圓尼首座　天保元庚寅（一八三〇）年四月十三日遷化
外智性尼首座

……註・文政十三年の十二月十日に天保と改元されている。従って天保元年は十日から年末までの二十日間。四月は文政十三年が正しい

三世　梅芳妙林尼首座　天保十己亥（一八三九）年十一月廿四日遷化
四世　鐵道了心尼首座　慶應元乙丑（一八六五）年九月廿二日遷化
五世　古山宗禅尼首座　明治廿四辛卯（一八九一）年旧九月廿六日遷化
六世（再中興）　鴻屋大隣尼和尚　昭和三甲寅（一九六四）年四月廿二日遷化
七世　黙玄圓契尼首座　大正三甲寅（一九一四）年七月廿九日遷化

……註・当山六世大隣の旧師の縁で、当寺へ金貳百円を寄付せられるにより七世とする……。

八世　重興戒苑朝和尚　昭和六辛巳（一九八六）年八月三一日遷化
九世　泰源常保尼首座　昭和十九甲申（一九四四）年八月二日遷化
十世　（九世は、八世の妹第子）一（現住職の白純良光に至る）

※大圓正道尼首座（明治四十三年一月十四日・遷化）の墓碑が有るが、世代には見当らず……。

寺宝

＊弘法大師像。　＊十六羅漢像。

開基

護山良守居士（延享五辰六月十四日）
璞明恵玉大姉（寶暦四戊七月十七日）

開基位牌

由緒

かって此の地に良守寺と称する禅寺があったが、元文四己未（一七三九）年に大破し為に、一旦廃寺となる。しかし創建については不詳である。その後の安永七戊戌（一七七八）年に、陶器所村（現在の須衛）の足立左右衛門の娘に自圓と申す者が居

て、この自圓が、現在の関市鋳物師屋（関高校の東）にあった普門院六世、慈門師の得度を受けた際自圓は、普門院の境内にあった隠寮を貰い受け、以然に廃寺となっていた良なおを寺そなをけ、圓、そ明治、二自己庵のと改称有て慈門師を請じて開山すと、なるなど、その興隆に尽くし主と自し、し、七七戸、死十四所七十廿八日土地を庵にて寄進寺と壊し焼て庵し自圓二十七七三人朝起き被害濃尾大地震濃尾帯で全失十四万二一し建て。良守庵全庵倒壊の悲運遭い、ばらく再建のメドも立たず

無住の時建て。

進安置後時には移復興努力を一部を新築した足立吉左衛門（現、足立孝美氏の祖先）が、十六羅漢像を寄進し、幾多の困難を堪えて大正三年九月に寺院を再興し、昭和十一年二月に現在の本堂を新築した。

寺と寺院は昇格し、協力して寺院を復興した。

もこの守護人となり、寺院は、昭和十四年二月に現在の田畑は、良寺を使用して、法灯を維持する。

に昇格して、法灯を維持する。

に至っては、細々ながら、

守護人となり、寺院は、昭和十四年二月に現在の田畑は、良寺を使用して、法灯を維持する。

に至っては、細々ながら、

寺と寺院は昇格し、協力して寺院を復興した。

もこの守護人となり、寺院は、昭和十四年二月に現在の田畑は、良寺を使用して、法灯を維持する。

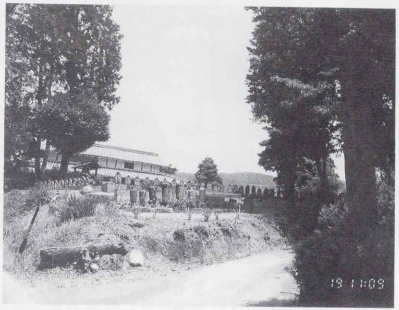
に至っては、細々ながら、

の五十洞宗の寺院は、曹洞宗の寺院は、五十七年の慈眼寺と同寺が兼務されている宝禅寺の他、各洞谷・寺がある。

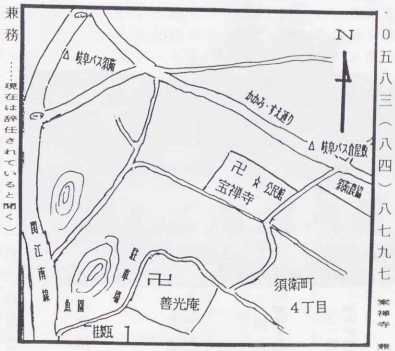
現在は、多くの放棄された寺院のうち、本堂は、ごく放棄された寺院のうち、本堂は、ごく放棄された寺院のうち、本堂は、ごく

四國山善光菴（寺）

■各務原市須衛町四丁目一六九番地
岐阜バス三柿野発下須衛下車東南へ徒歩十分
TEL・〇五八三（八四）八七九七
案内寺務



善光庵



現場見取図

住職……無住（安禅寺住職、佐藤文雄師兼務……現在は欠住されていると聞く）
宗派……臨済宗妙心寺派
開基……開山体道宜詮和尚禅師（少林寺中興二世）
本尊……丹羽ヱ門善光寺右如来
並びに諸仏……弘法大師・四國八十八観音

歴代住職（……一部は墓碑より判読記載するが歴代順位等不確実）

開山……体道宜詮和尚禅師……延寶四（丙辰）年十一月十二日……示寂
中興……圓全覚上座……寛政二（乙卯）年十一月……示寂
再中興……軌道恵範禅尼……文政二（己卯）年三月……示寂
宏山量尼座禅師……順道禅尼……弘化年間（一八四四～一八四八）に在住……示寂
瑞祖尼座禅師……貞禅尼……大正五（丙辰）年一月廿一日……示寂
覚首尼……大正十四（乙丑）年八月廿八日……示寂
西祥尼……昭和九（甲申）年九月廿四日……示寂
東州尼……庚申（一九二〇）年二月八日……示寂
和尚禅師……平成二（庚午）年（一九九〇）年……

寺宝……無住につき不詳

由緒

明治四十三年（一九一〇）年に提出した寺籍調査表の開創由緒より（当時の善光菴住職であった）松井祖量尼が岐阜県に書かれていた寺籍調査の寺宝詳細につい御宇竜華山（元禄二年）当寺は創建以来の歴代修飾の詳細は、正確な知識を得ずと……

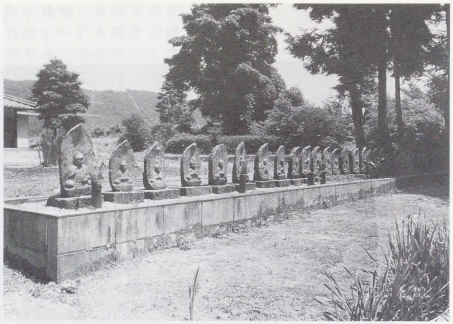
開山体道宜詮和尚・中興陽山道春禅者・軌道恵範禅尼・禅貞禅尼・現代（提出年代のこと）祖量禅尼・

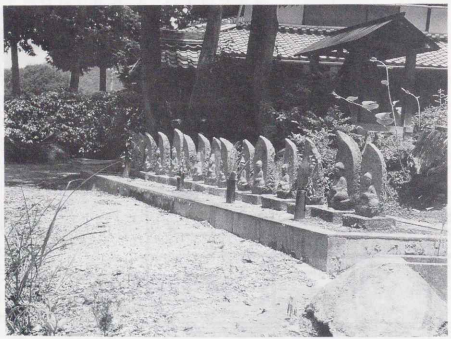
―歷代・開山體道春禪者・宜詮和尚・中興陽山道恵禪尼・現代（提出年時）祖量尼・禪貞禪尼・

以上由緒について推察できるが、善光寺は善光寺如来の中興二世・・・・体道宜全和尚が開山されている関係で、寺号となお当時少林禪寺の第七世・・・・乳峯玄慈和尚（天明四甲辰年―七八四年）と廿三日示寂）が、同少林禪寺の第八十八箇所の点眼導師をされている。十月この善光寺に「善光寺八十八導壽山安禪寺」の住職が兼務をされていたことも因縁深い。

推察できるが、追跡調査は不可能といってよい。この間に何人かの住者が在住したことは当然であるが、ご年齢のこともあり、現在は兼務の任を辞されていると聞く。

暦代住職墓石碑





寺内に供養の八八観音（五十体ほどを確認）

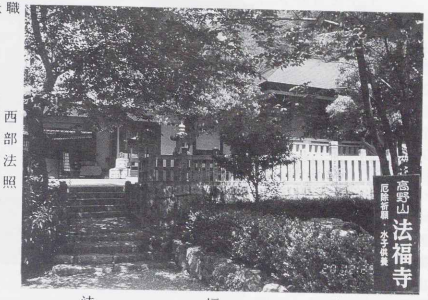
……寺院は無住であったが安禪寺住持により整備されていた……

高野山法福寺

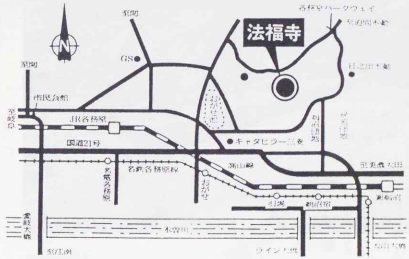
■岐阜バスおがせ下車北へ徒歩約五〇分
TEL・〇五八三（八四）三五一〇

各務原市各務車洞六七九九の三番地

住職　西部法照
宗派　高野真言宗
開山　阿闍梨法意和尚
開基　〃
本尊　大日如来
並びに諸仏　不動明王・毘沙門天・弘法大師



法　福　寺


法福寺
N
GS
キャタピラー三菱
JR各務原駅
名鉄各務原線
名鉄各務原駅
名鉄犬山線
名鉄犬山駅
至名鉄名古屋駅
至犬山駅
至長良川
至岐阜駅
至名鉄名古屋駅
至犬山駅
至各務原駅
至名鉄犬山

☆対話（充実した人生を過ごすための視野）
☆安らぎ（洗心・伝統の味と情緒）
☆育くみ（山寺環境の仏教修禅）
☆瞑想（多忙な生活、失われがちになる心の教養・研修）

以上を掲げている。

その他

パーソナルメモリー「風の塚」

生前契約の個人墓碑ドーム型の石製塚の中では、クラシック・コンサートや結婚式等も行われ、新しい視点での墓碑を提案している。

縁日（年中行事）

＊初詣・新年祈祷……（正月中）
＊厄除け節分祭……（二月第一日曜日）
＊春の彼岸法要……（三月春分の日）
＊あじさい祭……（六月中）
＊ほうろく灸……（七月第三日曜日）
＊盆供養・施餓鬼……（八月十六日）
＊秋の彼岸法要……（九月秋分の日）
＊毘沙門天王大祭……（十一月三日）

各務の花

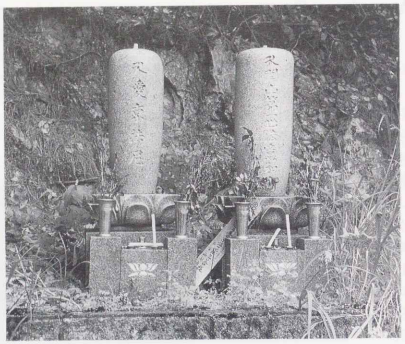
ハルジョオン（キク科）

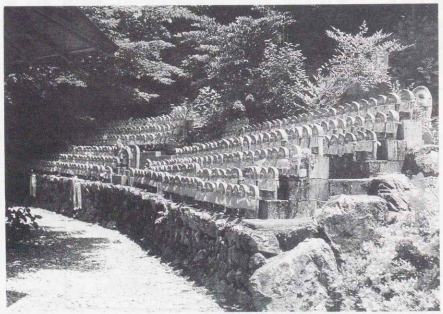
野山で見かける白い小さな花です。少し紫がかった花が、空き地一面に咲いているのは美しいものです。

よく似たヒメジョオンより遅れて明治後日本に上陸しましたが、先輩格のヒメジョオンを押し退けて、春から夏の野を飾ります。

蕾が下を向いて、うなだれているように見えるのがハルジョオンです。（風だよりより）

歴代住職の墓碑

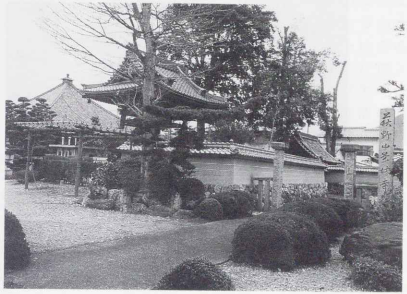




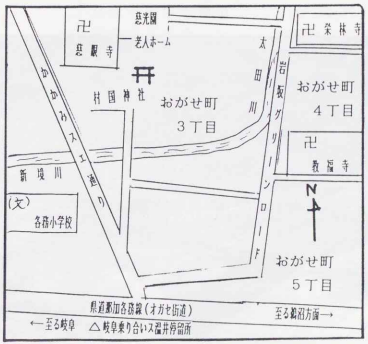
寺領内に供養されている水子地蔵尊

萩野山栄林寺

■各務原市各務東町四丁目八番地
北へ徒歩約二十分
岐阜バスおがせ停留所下車
TEL・〇五八三（八四）〇七六八



栄　林　寺



現場見取図

住職　松尾常孝
宗派　真宗・大谷派
開基　法覺師（先時代の史実で現在とは無関係）
開山　阿弥陀如来（製作年・製作者不詳……）
本尊　
並びに諸仏

歴代住職

初代　……寂年月日等不詳
前住職
二代　現・常孝住職

寺宝

……別になない。

由緒

＊現住職の談によると、祖父に当る人が空き寺を買って寺とした。祖父は住職ではなく、住職は先代から就任しているとのことである。すでに先代住職は他界されて、正式には現住職が本寺の二代目というべき。

従って寺には歴史といったものは無く、長い間の無住の状態があって、今さら追求しても必要の無いことである。

現在の寺は、過去の歴史とは一切関係もなく、それを裏ずけるような資料も無い。

（参考）

指摘もある資料だが、伝説としては、昭和三八年（一九六三）刊の各務村史による、かつての寺院は真宗一向宗東本願寺末寺。天文十辛丑（一五四一）年、法覺師によって創立とある。この法覺師についての法系は歴史辞典等により調べても不明である。

当初の創立以来、法灯を持続すること十二世……？。四〇〇年の間を真宗本願の極地絶対他力の信念を培い、教義普及云々……と記しているが、これは無住になる以前のことか……。

いずれにしても、各務村史の説く寺歴については現在の寺とは関係はない。

縁日等

＊開祖命日（年中行事）
（毎月廿八日……現在の寺院と関係については不明）
＊報恩講（毎年一月十四日・十五日）
＊永代経（春季・秋季の二回）

歴代住職墓碑

（住職の墓といった物は無い。……住職・談）

あとがき

各務原市内寺院簿（その三）は各務地区を中心に各務原市歴史サークルによって調査編集されました。歴史民俗資料館ではこうした調査資料を保存し、後世に伝えると共に、各務原市の歴史を検証する貴重な資料と考えて原文のまま発刊いたします。この資料により市内の歴史や民俗の再発見に寄与できれば幸いです。

各務原市歴史サークルは市内の歴史探求を目的に、３０名ほどの会員が郷土の歴史や民俗の調査と資料の掘り起こしなどの事業を積極的に行っておられます。こうした活動の中で発掘された資料や調査資料が、今後の各務原市の歴史解明に重要な役割を果たすもの信じます。

今後ともサークル活動が積極的に行われることを願っております。

平成十一年一月

各務原市歴史民俗資料館
館長　小川和正

各務原市の寺院（その三）

平成十一年一月

編集　各務原市歴史サークル
発行　各務原市歴史民俗資料館

各務原市図書館
11484646
85
カ